

(様式第 10)

阪 医 病 総 第 10 号  
平成 28 年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人大阪大学  
学長 西尾 章治郎 (印)

大阪大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1番1号
氏 名	国立大学法人大阪大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

大阪大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2番15号	電話 (06) 6879-5111
--------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<p>① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜</p> <p>② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜</p>
---

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 循環器内科 2 腎臓内科 3 消化器内科 4 内分泌・代謝内科 5 呼吸器内科	
6 アレルギー疾患・リウマチ科 7 血液・腫瘍内科 8 老年内科 9 神経内科 10 漢方内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 心臓血管外科 2 呼吸器外科 3 消化器外科 4 乳腺・内分泌外科 5 小児外科 6 形成外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	7産婦人科
⑧産科	⑨婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 2 3 4 5 6 7	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 病理診断科 2 リハビリテーション科 3 神経・精神科
-------------------------------

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
52床	0床	0床	0床	1,034床	1,086床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成28年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	453人	646人	827人	看護補助者	85人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	1人	20人	1.3人	理学療法士	14人	臨床検査技師	80人
薬 剤 師	81人	0人	81人	作業療法士	3人	衛生検査技師	3人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	17人	そ の 他	1人
助 産 師	41人	0人	41人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	948人	25人	966.3人	臨床工学士	31人	医療社会事業従事者	11人
准看護師	1人	1人	1.7人	栄 養 士	0人	その他の技術員	13人
歯科衛生士	0人	3人	2.2人	歯科技工士	0人	事 務 職 員	256人
管理栄養士	8人	0人	8人	診療放射線技師	66人	その他の職員	46人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成28年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	57人	眼 科 専 門 医	24人
外 科 専 門 医	118人	耳鼻咽喉科専門医	15人
精神科専門医	14人	放射線科専門医	28人
小児科専門医	35人	脳神経外科専門医	19人
皮膚科専門医	12人	整形外科専門医	20人
泌尿器科専門医	24人	麻酔科専門医	22人
産婦人科専門医	28人	救急科専門医	16人
		合 計	432人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 野口 眞三郎 ) 任命年月日 平成28年4月1日

平成19年12月～現在 大阪大学医学部附属病院統括医療安全管理委員会委員

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	867.9人	0人	867.9人
1日当たり平均外来患者数	2410.5人	18.8人	2429.3人
1日当たり平均調剤数			1652.7剤
必要医師数			229人
必要歯科医師数			1人
必要薬剤師数			29人
必要(准)看護師数			516人

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	
集中治療室	499.67m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	病床数	24床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 363.88 m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 台		病床数	31	床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 55 m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	643m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 検査台、遠心分離機、自動分析装置			
細菌検査室	135m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 検査台、顕微鏡、恒温器、安全キャビネット			
病理検査室	305m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 検査台、顕微鏡、ドラフトチャンバー			
病理解剖室	65m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、保管庫、冷蔵庫			
研究室	12,434m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) パソコン等OA機器、実験台、保管庫			
講義室	1,187m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	7 室	収容定員	953 人
図書室	4,041m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	- 室	蔵書数	333,000 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成27年4月1日～平成28年3月31日	
紹介率	91.2%	逆紹介率	62.1%
算出根拠	A：紹介患者の数		19,886人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		13,920人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		554人
	D：初診の患者の数		22,407人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

【当該措置を講じるための計画を提出済】

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

【当該措置を講じるための計画を提出済】

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	2人
前眼部三次元画像解析	2人
自家嗅粘膜移植による脊髄再生治療	1人
腹腔鏡下広汎子宮全摘術	10人
角膜ジストロフィーの遺伝子解析	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示  
第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
重症低血糖発作を伴うインスリン依存性糖尿病に対する脳死ドナー又は心停止ドナーからの膵島移植 重症低血糖発作を伴うインスリン依存性糖尿病	0人
急性心筋梗塞に対するエポエチンベータ投与療法 急性心筋梗塞(再灌流療法の成功したものに限る。)	0人
ラジオ波焼灼システムを用いた腹腔鏡補助下肝切除術 原発性若しくは転移性肝がん又は肝良性腫瘍	0人
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	0人
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。)	0人
経カテーテル大動脈弁植込み術 弁尖の硬化変性に起因する重度大動脈弁狭窄症(慢性維持透析を行っている患者に係るものに限る)	0人
ベベルミノゲンペルプラスミドによる血管新生療法 閉塞性動脈硬化症又はビュルガー病(血行再建術及び血管内治療が困難なものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	0人
上肢カッピングガイド及び上肢カスタムメイドプレートを用いた上肢骨変形矯正術 骨端線障害若しくは先天奇形に起因する上肢骨(長管骨に限る。以下この号において同じ。)の変形又は上肢骨の変形治癒骨折(一上肢に二以上の骨変形を有する者に係るものを除く。)	8人
FDGを用いたポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影による不明熱の診断 不明熱(画像検査、血液検査及び尿検査により診断が困難なものに限る。)	1人
コラーゲン半月板補填材を用いた半月板修復療法 半月板損傷(関節鏡検査により半月板の損傷を有すると診断された患者に係るものに限る。)	1人
周術期カルペリチド静脈内投与による再発抑制療法 非小細胞肺がん(CT撮影により非浸潤がんとして診断されたものを除く。)	0人
11C標識メチオニンを用いたポジトロン断層撮影による再発の診断 頭頸部腫瘍(原発性若しくは転移性脳腫瘍(放射線治療を実施した日から起算して半年以上経過した患者に係るものに限る。))又は上咽頭、頭蓋骨その他脳に近接する臓器に発生する腫瘍(放射線治療を実施した日から起算して半年以上経過した患者に係るものに限る。))であり、かつ再発が疑われるものに限る。)	3人
内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下胃切除術 根治切除が可能な胃がん(ステージⅠまたはⅡであって、内視鏡による検査の所見で内視鏡的胃粘膜切除術の対象とならないと判断されたものに限る。)	3人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	NY-ESO-1抗原を発現する成人T細胞性白血病/リンパ腫(ATLL)に対するNY-ESO-1蛋白/Poly ICLCと モガリズマブと	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 腫瘍細胞を抗癌剤の攻撃から守るとされる制御性T細胞を、モガリズマブを用いて除去することで、がんワクチンの効果を最大化する治療法である。			
医療技術名	小児腸管機能不全、特に短腸症に対する腸管延長術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 小児腸管不全患者、特に短腸症の患者に対して腸管延長術を高度な医療として行っている。腸管延長により在宅高カロリー輸液への依存度が低下でき、小腸移植までの期間を延長できる可能性があると考えられる。			
医療技術名	重症肺嚢胞性疾患に対する体外循環補助下での肺切除術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 重症肺嚢胞性疾患の中には、特に出生後呼吸不全となる症例が存在する。このような超重症例において、高度な医療として、人工心肺の装着下に肺切除を行う。			
医療技術名	ICGイメージングを用いた進行性肝芽腫・肺転移巣の診断と治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 肝芽腫の進行例では肺転移が予後規定因子となる。ICGイメージングにより、CTなどの画像診断よりも詳細にミリの転移巣の描出が可能となる。そのためより根治性を高めることができる。			
医療技術名	1型糖尿病に対する Sensor-Augmented Pump (SAP) を用いた糖尿病治療	取扱患者数	17人
1型糖尿病患者では自己インスリン分泌が絶対的に不足しており、頻回の自己血糖測定結果に基づき、インスリン注射量を決定している。インスリン注入量をあらかじめプログラムし必要なインスリンを持続投与し得るpump機能に加え、sensorによる持続血糖モニタリングが可能なSAPを用いることで、基礎及び追加インスリン量設定を精密に行え、血糖管理が良好となる。			
医療技術名	4D-Phase-contrast MRIを用いた脳動脈瘤の血流動態評価	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 心電図同期を行った3D-Phase-contrast MRAを用いて動脈瘤の血流を定量的に評価する。			
医療技術名	4D-CTAを用いた脳腫瘍の血管および血流評価	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 320列CTを用いて全脳で時間情報を含む3D-CTAを撮影し、脳腫瘍の血管および血流評価を行う。			
医療技術名	4D-CTAを用いた脳動脈瘤の拍動評価	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 320列CTを用いて心電図同期した3D-CTAを撮影し、脳動脈瘤の拍動評価を行う。			
医療技術名	皮膚・軟部の脈管奇形に対するIVR治療	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要 頭頸部・四肢・体幹部等の脈管奇形(血管奇形・リンパ管奇形及びそれらの混合型)に対して塞栓術や硬化療法などIVR (interventional radiology)治療を行う。			
医療技術名	小児神経筋疾患における骨格筋生検・特殊染色	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 筋疾患が疑われた場合、筋生検が診断に必要なことが多く、通常のH&E染色以外に凍結標本を用いた酵素染色や免疫染色を各種行い、治療方針の決定に役立っている。			
医療技術名	小児難治性てんかんにおけるてんかん外科適応精査	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 難治性てんかんに対して、てんかん外科手術が症状軽減に役立つことがあり、適応があるのかどうか、どのような術式を選択することが望ましいのかを、脳波、MRI、FDG-PET、脳磁図などの、さまざまな検査を用いて解析し、治療方針決定に結びつけている。			
医療技術名	ロボット支援縦隔腫瘍切除術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 da Vinci システムをもちいた縦隔手術を高度な医療として行っている。 ロボット支援手術によってより複雑で細やかな手術手技を可能としており、より低侵襲な手術が可能であると考えられる。			
医療技術名	肺移植患者に対する水素ガス吸入の安全性と有効性の検討	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 肺移植患者(脳死・生体)に対して、水素ガス吸入の安全性および有効性の検討を目的として実施している。 水素投与により移植肺虚血再灌流障害を軽減すると考えられ、臨床経過や酸化ストレスマーカーなどのデータ収集を行っている。			
医療技術名	3D経食道心臓超音波検査による弁膜症評価	取扱患者数	123人
当該医療技術の概要 心臓弁膜症の治療にあたり、弁及び心臓の構造、形態を3次元構築し治療に有効な評価情報を提供する。			
医療技術名	冠動脈高度石灰化病変に対するロータブレードによるインターベンション治療	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 冠動脈高度石灰化病変に対するロータブレードによるインターベンション治療			
医療技術名	冠動脈疾患に対する生体吸収性ステント留置術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 現在経皮的冠動脈インターベンション(PCI)で使用されている金属ステント部分が生体吸収性のPLA(Poly-lactide)で作られたもので、加水分解により完全に生体吸収される新しいステントである。治験として実施中。			



医療技術名	冠動脈完全閉塞病変に対する経皮的インターベンション治療	取扱患者数	31人
当該医療技術の概要 治療が困難なため熟練した手技を要する完全閉塞病変に対しての冠動脈インターベンション(PCI)治療			
医療技術名	CTを用いた冠動脈完全閉塞病変に対する経皮的インターベンション治療	取扱患者数	27人
当該医療技術の概要 CTとアンギオが一体となった心カテ装置を用いて行う冠動脈インターベンション(PCI)治療であり、この試みは本邦初である。			
医療技術名	心室頻拍に対する経皮的カテーテル心筋焼灼術	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 薬物治療が困難な心室頻拍に対し、心内膜・心外膜からマッピングを施行し不整脈回路を同定し治療を行う。			
医療技術名	先天性心疾患術後不整脈症例に対する経皮的カテーテル心筋焼灼術	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 複雑心奇形術後に発生する不整脈に対し、三次元マッピングやイメージング画像統合により不整脈起源を明らかにし、総合的な治療戦略を提供する。			
医療技術名	重症心不全・心臓非同期症例における再同期療法	取扱患者数	32人
当該医療技術の概要 心室内収縮の非同期による心機能低下症例に対し右室・左室からのペーシング治療を行い、収縮を同期させることにより心機能の改善を図る。			
医療技術名	エキシマレーザーを用いた植え込みデバイス心内リード除去術	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 先端からエキシマレーザーを放射するシースにより癒着組織を剥離し、血管内に癒着した植え込みデバイスのリードを除去する。			
医療技術名	植込型除細動器(ICD)適応評価保留中の患者に対する着用型除細動器の使用	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 ICDの適応評価中(心筋梗塞急性期など)や使用不可時期(感染)においてベスト型の心室性不整脈感知・治療デバイスを使用する。			
医療技術名	完全皮下植込み型除細動器(S-ICD)植込術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 感染後や静脈アクセス困難な症例において、心室性不整脈に起因する突然死を経静脈にリードを留置することなく予防する。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六條の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	5	56	ベーチェット病	156
2	筋萎縮性側索硬化症	20	57	特発性拡張型心筋症	287
3	脊髄性筋萎縮症	10	58	肥大型心筋症	43
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	3
5	進行性核上性麻痺	27	60	再生不良性貧血	84
6	パーキンソン病	343	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	13	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	119
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	24
11	重症筋無力症	227	66	IgA腎症	29
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	33
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	102	68	黄色靱帯骨化症	3
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	18	69	後縦靱帯骨化症	84
15	封入体筋炎	2	70	広範脊柱管狭窄症	10
16	クロー・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	65
17	多系統萎縮症	28	72	下垂体性ADH分泌異常症	13
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	92	73	下垂体性TSH分泌亢進症	7
19	ライソゾーム病	55	74	下垂体性PRL分泌亢進症	13
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	19
21	ミトコンドリア病	10	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	4
22	もやもや病	34	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	53
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	142
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	5
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	2	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	9	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	113
30	遠位型ミオパチー	3	85	特発性間質性肺炎	34
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	49
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	11
34	神経線維腫症	69	89	リンパ管筋腫症	38
35	天疱瘡	44	90	網膜色素変性症	88
36	表皮水疱症	40	91	バッド・キアリ症候群	4
37	膿疱性乾癬(汎発型)	8	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	93	原発性胆汁性肝硬変	60
39	中毒性表皮壊死症	3	94	原発性硬化性胆管炎	4
40	高安動脈炎	85	95	自己免疫性肝炎	9
41	巨細胞性動脈炎	1	96	クローン病	196
42	結節性多発動脈炎	22	97	潰瘍性大腸炎	255
43	顕微鏡的多発血管炎	25	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	17	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	3
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	7	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	13	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	24	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	4	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	444	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	127	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	178	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	71	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	28	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	7	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	4	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	0
113	筋ジストロフィー	11	163	特発性後天性全身性無汗症	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	1	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	2
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	2
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウイルソン病	3
122	脳表ヘモジドリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウイルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/バモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	2
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	1	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイノミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	8	208	修正大血管転位症	1
159	色素性乾皮症	1	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	3

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
0	左心低形成症候群	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
1	三尖弁閉鎖症	260	シトステロール血症	0
0	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	261	タンジール病	0
0	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	262	原発性高カイロミクロン血症	0
2	ファロー四徴症	263	脳腫黄色腫症	0
0	両大血管右室起始症	264	無βリポタンパク血症	0
0	エプスタイン病	265	脂肪萎縮症	0
0	アルポート症候群	266	家族性地中海熱	0
0	ギャロウェイ・モワト症候群	267	高IgD症候群	0
0	急速進行性糸球体腎炎	268	中條・西村症候群	0
0	抗糸球体基底膜腎炎	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
17	一次性ネフローゼ症候群	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
0	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	271	強直性脊椎炎	2
0	紫斑病性腎炎	272	進行性骨化性線維異形成症	0
0	先天性腎性尿崩症	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
0	間質性膀胱炎(ハンナ型)	274	骨形成不全症	0
1	オスラー病	275	タナトフォリック骨異形成症	0
0	閉塞性細気管支炎	276	軟骨無形成症	0
0	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	1
0	肺胞低換気症候群	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
0	α1-アンチトリプシン欠乏症	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
0	カーニー複合	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	2
0	ウォルフラム症候群	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2
0	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
1	副甲状腺機能低下症	283	後天性赤芽球癆	0
1	偽性副甲状腺機能低下症	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
0	副腎皮質刺激ホルモン不応症	285	ファンconi貧血	0
0	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
0	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	287	エプスタイン症候群	0
1	フェニルケトン尿症	288	自己免疫性出血病XIII	0
0	高チロシン血症1型	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
0	高チロシン血症2型	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
0	高チロシン血症3型	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	0
0	メーブルシロップ尿症	292	総排泄腔外反症	0
0	プロピオン酸血症	293	総排泄腔遺残	0
0	メチルマロン酸血症	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
0	イソ吉草酸血症	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
0	グルコーストランスポーター1欠損症	296	胆道閉鎖症	0
0	グルタル酸血症1型	297	アラジール症候群	1
0	グルタル酸血症2型	298	遺伝性膀胱炎	0
0	尿素サイクル異常症	299	嚢胞性線維症	0
0	リジン尿性蛋白不耐症	300	IgG4関連疾患	4
0	先天性葉酸吸収不全	301	黄斑ジストロフィー	0
0	ポルフィリン症	302	レーベル遺伝性視神経症	0
0	複合カルボキシラーゼ欠損症	303	アッシュヤー症候群	0
0	筋型糖原病	304	若年発症型両側性感音難聴	0
1	肝型糖原病	305	遅発性内リンパ水腫	0
0	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	306	好酸球性副鼻腔炎	1

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
特定機能病院入院基本料	総合周産期特定集中治療室管理料
超急性期脳卒中加算	新生児治療回復室入院医療管理料
診療録管理体制加算	小児入院医療管理料2
医師事務作業補助体制加算	短期滞在手術基本料1
急性期看護補助体制加算	
看護職員夜間配置加算	
療養環境加算	
重症者等療養環境特別加算	
無菌治療室管理加算	
精神科身体合併症管理加算	
精神科リエゾンチーム加算	
栄養サポートチーム加算	
医療安全対策加算	
感染防止対策加算	
患者サポート体制充実加算	
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
ハイリスク妊婦管理加算	
ハイリスク分娩管理加算	
総合評価加算	
病棟薬剤業務実施加算	
データ提出加算	
退院支援加算	
精神疾患診療体制加算	
精神科急性期医師配置加算	
救命救急入院料	
特定集中治療室管理料	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
高度難聴指導管理料	仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術
糖尿病合併症管理料	治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))
がん性疼痛緩和指導管理料	羊膜移植術
がん患者指導管理料	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
移植後患者指導管理料	網膜再建術
糖尿病透析予防指導管理料	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
外来放射線照射診療料	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
ニコチン依存症管理料	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)
ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)	乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1及び又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)
がん治療連携計画策定料	乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
薬剤管理指導料	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
医療機器安全管理料1	肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
医療機器安全管理料2	同種死体肺移植術
在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	生体部分肺移植術
持続血糖測定器加算	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
遺伝学的検査	経カテーテル大動脈弁置換術
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	経皮的中隔心筋焼灼術
検体検査管理加算(Ⅰ)	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
検体検査管理加算(Ⅳ)	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
国際標準検査管理加算	植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
遺伝カウンセリング加算	両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	補助人工心臓
胎児心エコー法	小児補助人工心臓
ヘッドアップティルト試験	植込型補助人工心臓(非拍動流型)
人工臓器検査	同種心移植術

皮下連続式グルコース測定	同種心肺移植術
長期継続頭蓋内脳波検査	骨格筋由来細胞シート心表面移植術
中枢神経磁気刺激による誘発筋電図	腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
光トポグラフィー	胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
脳磁図	腹腔鏡下肝切除術
脳波検査判断料1	生体部分肝移植術
神経学的検査	同種死体肝移植術
補聴器適合検査	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
ロービジョン検査判断料	腹腔鏡下臍頭十二指腸切除術
コンタクトレンズ検査料	同種死体臍移植術、同種死体臍腎移植術
内服・点滴誘発試験	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
センチネルリンパ節生検(片側)	腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
画像診断管理加算2	同種死体腎移植術
遠隔画像診断	生体腎移植術
ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影、ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影又は乳房用ポジトロン断層撮影	膀胱水圧拡張術
CT撮影及びMRI撮影	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
冠動脈CT撮影加算	人工尿道括約筋植込・置換術
外傷全身CT加算	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
心臓MRI撮影加算	腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
乳房MRI撮影加算	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
外来化学療法加算1	胎児胸腔・羊水腔シャント術
無菌製剤処理料	胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
心大血管疾患リハビリテーション料(I)	輸血管管理料 I
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
運動器リハビリテーション料(I)	麻酔管理料(I)
呼吸器リハビリテーション料(I)	麻酔管理料(II)
がん患者リハビリテーション料	放射線治療専任加算
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	外来放射線治療加算
医療保護入院等診療料	高エネルギー放射線治療

硬膜外自家血注入	1回線量増加加算
透析液水質確保加算	強度変調放射線治療 (IMRT)
人工臓器療法	画像誘導放射線治療加算 (IGRT)
磁気による膀胱等刺激法	定位放射線治療
皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	画像誘導密封小線源治療加算
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	病理診断管理加算
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・腹腔鏡下子宮体がん根治手術	・
・経カテーテル大動脈弁留置術	・
・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	348
剖 検 の 状 況	剖検症例数 39 例 / 剖検率 14.1 %

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
心不全生体モニタリングモデルマウスを用いた重症心不全の難治化分子機序の解明	朝野仁裕	循環器内科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
生体内ATP産生の可視化と制御機構の解明	朝野仁裕	循環器内科	4,706,000	委 (独)科学技術振興機構
赤血球質的異常に着目した新しい心不全病態概念の確立	大谷朋仁	循環器内科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
ミトコンドリア蛋白質MENTの心筋虚血プレコンディショニングに関する機能解析	木岡秀隆	循環器内科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
G蛋白共役受容体とToll様受容体の特異的分子共役による心不全難治化機序の解明	真田昌爾	循環器内科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
多面的転写プロファイリングを用いた心臓リモデリング関連因子探索と治療応用への試み	肥後修一朗	循環器内科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
心筋におけるミトコンドリアDNA分解制御機構の解明とその心不全治療への応用	彦惣俊吾	循環器内科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
心臓逆リモデリングにおけるミトコンドリアダイナミクスの関与の解明	山口修	循環器内科	2,340,000	補 独立行政法人日本学術振興会
「脱細胞化マトリックスを用いた心臓の再生」～立体臓器構築をめざした基盤技術の確立	李鍾國	循環器内科	2,730,000	補 独立行政法人日本学術振興会
老化関連疾患における慢性炎症の病態生理学的意義の解明	李鍾國	循環器内科	13,000,000	委 日本医療研究開発機構(AMED)
腎機能障害者の生活活動性を維持するための安全で効果的な腹膜透析法の普及のための対策	猪阪善隆	腎臓内科	4,992,000	補 厚生労働省
ヒストンアセチル化制御メカニズム解明による治療法開発	猪阪善隆	腎臓内科	5,460,000	補 独立行政法人日本学術振興会
新規臓器肥大epigenetic marker H4K20ac基礎的研究	貝森淳哉	腎臓内科	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
腎における脂質毒性抑制機構としてのオートファジーの役割とその病態生理的意義の解明	高畠義嗣	腎臓内科	2,600,000	補 独立行政法人日本学術振興会
リン負荷がEPOに及ぼす影響(リン性貧血なる新概念の創出)	濱野高行	腎臓内科	3,120,000	補 独立行政法人日本学術振興会
25-hydroxyvitamin Dが腎線維化に与える直接的影響の検討	松井功	腎臓内科	2,210,000	補 独立行政法人日本学術振興会
T細胞受容体の量的制御による抗体産生反応調節機構の解明と自己免疫疾患治療への応用	水井理之	腎臓内科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会

小計

17

腸管炎症における共生微生物および食事成分を介した免疫誘導組織の役割の解明	飯島英樹	消化器内科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
肝細胞Rab11aを介した細胞内輸送の分子機構の解明	阪森亮太郎	消化器内科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ポルフィリン合成経路代謝産物解析による新規降糖診断法の開発	重川稔	消化器内科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
制御性糖鎖による新しい炎症性腸疾患の病態解明	新崎信一郎	消化器内科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
肝発癌過程におけるアポトーシスとオートファジーの統合解析と新規治療法の開発	竹原徹郎	消化器内科	10,010,000	補	独立行政法人日本学術振興会
Krasの活性化による癌発生と進展過程におけるCTGFの意義と腫瘍・間質相互作用	竹原徹郎	消化器内科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ヒト肝細胞を用いた肝発癌モデルの開発と、発癌遺伝子変異に依存した治療薬の解明	疋田隼人	消化器内科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
バイエル板共生細菌と腸管炎症との関わり	日山智史	消化器内科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
劇症1型糖尿病患者降より同定された2種のウイルスによるβ細胞傷害機構の解明	今川彰久	内分泌・代謝内科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
低侵襲アプローチによる糖尿病大血管症リスク層別化システムの構築	片上直人	内分泌・代謝内科	650,000	補	独立行政法人日本学術振興会
2型糖尿病発症・進展におけるグルカゴン分泌の病態生理学的意義の解明	河盛段	内分泌・代謝内科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ヒト降糖組織切片分析による2型糖尿病発症過程の降糖形態学的モデルの構築	小澤純二	内分泌・代謝内科	1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会
医歯工連携によるユーザーフレンドリーなメタボロミクス技術の開発ならびに生活習慣病研究への応用	下村伊一郎	内分泌・代謝内科	42,250,000	委	日本医療研究開発機構(AMED)
アディポネクチンの新たな作用発現・濃度調節機構とFavine作用機序の解明	下村伊一郎	内分泌・代謝内科	7,540,000	補	独立行政法人日本学術振興会
診療録直結型糖尿病データベース構築に向けた病院への情報システム導入と、システムを用いた情報収集の管理業務	下村伊一郎	内分泌・代謝内科	540,000	委	国立国際医療センター
内臓脂肪蓄積病態への腸間膜リンパ節の関与を明らかにする研究	下村伊一郎	内分泌・代謝内科	780,000	補	独立行政法人日本学術振興会
新規臨床検査法、FACS-mQの開発	高野徹	内分泌・代謝内科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
末梢動脈疾患の病態進展における糖尿病の寄与の解明	高原充佳	内分泌・代謝内科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
肥満脂肪組織におけるアミノ酸・プリン代謝とアディポサイトカイン産生異常	西澤均	内分泌・代謝内科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

アディポネクチンの結合蛋白を介する生理作用の分子基盤の解明	前田法一	内分泌・代謝内科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
障害性β細胞の機能回復・機能的β細胞作製へ向けた試み	松岡孝昭	内分泌・代謝内科	2,730,000	補	独立行政法人日本学術振興会
遺伝子改変T細胞を用いた肺癌に対する新規免疫療法の開発	岩堀幸太	呼吸器内科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
内在性リガンドが介在する癌と微小環境との相互作用を標的とした肺癌治療の開発	木島貴志	呼吸器内科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
びまん性肺疾患における疾患特異的自己抗体の検索	木田博	呼吸器内科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
エクソソームの最新プロテオミクスによる新規COPDバイオマーカー探索	武田吉人	呼吸器内科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
人間力活性化によるスーパー日本人の育成と産業競争力の増進／豊かな社会の構築	熊ノ郷淳	免疫・アレルギー・内科	36,743,200	委	(独)科学技術振興機構
腸内フローラ操作による免疫疾患の新規制御法の開発	熊ノ郷淳	免疫・アレルギー・内科	8,046,747	補	文部科学省
慢性炎症におけるガイドランス因子の病的意義の解明とその制御	熊ノ郷淳	免疫・アレルギー・内科	67,600,000	委	日本医療研究開発機構(AMED)
自己免疫疾患におけるエクソソームによる炎症制御機構の解明	高松漂太	免疫・アレルギー・内科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
抗腫瘍免疫の評価系としての白血病モデルの確立とその成果に基づくヒト免疫療法の強化	中田潤	免疫・アレルギー・内科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
インテグリンα8の骨髄内での発現・機能解析ー多発性骨髄腫治療への応用に向けてー	一井倫子	血液・腫瘍内科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
抗補体薬の臨床応用に向けた網羅的解析	植田康敬	血液・腫瘍内科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
BCR-ABL関連造血器腫瘍に対するSTAP-2を標的とした新規治療戦略の確立	織谷健司	血液・腫瘍内科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
血小板インテグリン活性化機構の解明と動脈血栓形成に関する検討	柏木浩和	血液・腫瘍内科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
新規抗血栓療法をめざしたインテグリンαIIbβ3活性化と活性化維持機構の解明	加藤恒	血液・腫瘍内科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
抗アポトーシス分子アナモルシンの機能解析ー造血と細胞内鉄代謝における役割ー	金倉謙	血液・腫瘍内科	4,420,000	補	独立行政法人日本学術振興会
免疫細胞における抗アポトーシス分子アナモルシンの役割の解析	柴山浩彦	血液・腫瘍内科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
悪性神経膠腫に対するWT1ペプチドワクチン療法の抗腫瘍効果を増強する治療法の開発	坪井昭博	血液・腫瘍内科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

発作性夜間ヘモグロビン尿症患者のエクリズマブ治療反応性の検討	西村純一	血液・腫瘍内科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
リンパ造血器疾患の病態形成におけるシグナル調節分子STAP-2の関与	前田哲生	血液・腫瘍内科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
表面抗原ESAMを指標とした造血幹細胞の活性化を誘導する分子機構の同定と臨床応用	横田貴史	血液・腫瘍内科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
糖尿病による認知症促進の鍵分子を探索する	里直行	老年・高血圧内科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
アルツハイマー病に対する生体恒常性維持機構の解明と糖尿病によるその破綻	里直行	老年・高血圧内科	5,590,000	補	独立行政法人日本学術振興会
地域在住高齢者におけるフレイルの進行に関する研究	杉本研	老年・高血圧内科	600,000	委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
サルコペニア肥満における筋ミトコンドリア機能賦活の意義	杉本研	老年・高血圧内科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
加齢に伴う動脈硬化形成におけるマクロファージのCYLDの機能解明	鷹見洋一	老年・高血圧内科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
軽度認知機能障害の認知機能悪化速度を予測するバイオマーカーの探索研究	武田昌生	老年・高血圧内科	2,600,000	補	独立行政法人日本学術振興会
脳血管障害を伴うアルツハイマー型認知症の臨床経過と動物モデルの構築	竹屋泰	老年・高血圧内科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
メカニカルストレス応答因子に着目した新規大動脈瘤治療法の開発	谷山義明	老年・高血圧内科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
高血圧ワクチン実用化による降圧の質的改善を目指した新規治療	中神啓徳	老年・高血圧内科	6,630,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ミエロイド由来の未分化細胞群を標的とした慢性炎症制御を目指した新規治療の開発	中神啓徳	老年・高血圧内科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
アンチエイジング効果のあるショートペプチドを用いた化粧品・育毛剤の開発ーペプチドのプラットフォームテクノロジーの開発ー	中神啓徳	老年・高血圧内科	48,968,400	委	科学技術振興機構
サルコペニア治療薬の臨床応用に向けた基礎的検討	山本浩一	老年・高血圧内科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
生活習慣病治療薬によるアルツハイマー病治療戦略の基盤構築	山本浩一	老年・高血圧内科	5,200,000	補	独立行政法人日本学術振興会
薬物治療に関する文献検索およびアンケート調査実施	樂木宏実	老年・高血圧内科	1,000,000	委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
老化による血管内皮障害に関連する新規ユビキチン系分子の探索及び臨床応用への可能性	樂木宏実	老年・高血圧内科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
iPS細胞によるドラッグ・リポジショニング法を用いた新規抗サルコペニア剤の開発	萩原圭祐	漢方医学科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

血管新生薬剤による虚血性心筋症の克服	上野高義	心臓血管外科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
永久生着を目指した成長ポテンシャルを有する人工心臓弁の開発	小澤秀登	心臓血管外科	2,470,000	補	独立行政法人日本学術振興会
末梢血管障害に対する低酸素プレコンディショニング細胞移植療法のプレ臨床的検証	工藤智明	心臓血管外科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
iPS細胞を用いた心筋再生治療創成拠点	澤芳樹	心臓血管外科	393,110,000	委	日本医療研究開発機構(AMED)
心不全に対する再生医療におけるバイオインフォマティクスデータベースの構築	澤芳樹	心臓血管外科	4,800,000	委	日本医療研究開発機構(AMED)
ラット心筋梗塞モデルにおける心筋組織片の有効性の評価	澤芳樹	心臓血管外科	16,000,000	委	京都大学
革新的医薬品・医療機器・再生医療製品実用化促進事業補助金	澤芳樹	心臓血管外科	42,000,000	補	厚生労働省
iPS細胞を用いた三次元心筋組織チップ自動作製装置の開発	澤芳樹	心臓血管外科	3,120,000	委	日本医療研究開発機構(AMED)
iPS細胞を用いた三次元心筋組織チップ自動作製装置の開発	澤芳樹	心臓血管外科	3,120,000	委	日本医療研究開発機構(AMED)
循環器疾患におけるiPS細胞由来心筋細胞を用いた再生創薬に関する研究	澤芳樹	心臓血管外科	20,410,000	補	独立行政法人日本学術振興会
心筋再生治療薬封入ナノスフェア製剤を用いた心不全治療の開発	澤芳樹	心臓血管外科	2,210,000	補	独立行政法人日本学術振興会
生体多光子励起イメージング技術を利用した新規低侵襲・高解像度がん診断装置の開発	澤芳樹	心臓血管外科	4,015,000	委	日本医療研究開発機構(AMED)
国際・未来医療のための人材養成拠点創生	澤芳樹	心臓血管外科	53,700,000	補	文部科学省
血管新生因子誘導剤による術後脊髄虚血予防法の開発	島村和男	心臓血管外科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
血管新生薬剤による心臓外科手術後創傷治療促進効果の検討	戸田宏一	心臓血管外科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
重症心不全のreverse remodelingの特異的バイオマーカーの探索	仲村輝也	心臓血管外科	2,210,000	補	独立行政法人日本学術振興会
iPS心筋の臨床応用へ向けた造腫瘍性回避技術の新規開発	増田茂夫	心臓血管外科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
アロiPS細胞の臨床応用を目指した免疫寛容法の開発	宮川繁	心臓血管外科	5,200,000	補	独立行政法人日本学術振興会
iPS細胞を用いた冠循環を構築する三次元心筋組織の創生	宮川繁	心臓血管外科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

細胞シートによる再生医療の汎用性向上を目指した細胞シート凍結方法の開発	吉川泰司	心臓血管外科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
脂肪幹細胞およびiPS細胞を用いた肺再生医療の開発	奥村明之進	呼吸器外科	4,940,000	補	独立行政法人日本学術振興会
肺移植関連酸化ストレスに対する水素による新規包括的治療の開発	川村知裕	呼吸器外科	2,860,000	補	独立行政法人日本学術振興会
癌周囲微小環境を標的とした肺癌治療の開発	新谷康	呼吸器外科	7,280,000	補	独立行政法人日本学術振興会
肺癌症例における血中遊離癌細胞の転移形成能獲得メカニズムの解明	舟木壮一郎	呼吸器外科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
人工修飾型マイクロRNAによるin vivoリプログラミング技術の新構築	石井秀始	消化器外科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
癌代謝特性を標的化した難治性消化器癌の革新的創薬基盤技術の新構築	石井秀始	消化器外科	4,290,000	補	独立行政法人日本学術振興会
「がんエピゲノム異常を標的とした治療・診断法の開発」(難治性消化器癌のエピゲノム創薬の加速化)」	石井秀始	消化器外科	17,600,000	委	日本医療研究開発機構(AMED)
膵癌の癌細胞-癌間質におけるmicroRNA相互作用の解明と薬剤耐性克服法の構築	江口英利	消化器外科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
臨床降島移植の成績を改善するための次世代ストラテジーを用いた包括的研究	川本弘一	消化器外科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
長鎖ノンコーディングRNAエピジェネティック制御機構の解明とその癌治療への応用	工藤敏啓	消化器外科	2,210,000	補	独立行政法人日本学術振興会
次世代シーケンサーを用いた胃癌・GIST患者末梢血中腫瘍由来浮遊DNAの検出	黒川幸典	消化器外科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
1型糖尿病の根治を目指した新規膵β細胞誘導物質の同定と創薬展開	坂井大介	消化器外科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
消化管間葉系腫瘍に対する分子標的治療薬剤耐性のメカニズムの解明	高橋剛	消化器外科	2,340,000	補	独立行政法人日本学術振興会
大腸癌に対する新規Lgr5抗体を用いた創薬のための基礎研究	高橋秀和	消化器外科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
高難度手術およびハイリスク症例の手術成績向上を目指したグレリン支持療法の開発	瀧口修司	消化器外科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
がん細胞が特異的に生成するシェーディング産物の網羅的解析によるがんの早期診断システムの開発	土岐祐一郎	消化器外科	970,000	委	国立大学法人宮崎大学
グレリンによる手術侵襲軽減のメカニズムの解明と臨床応用へ向けた投与法の最適化	土岐祐一郎	消化器外科	7,150,000	補	独立行政法人日本学術振興会
高精度がん診断のためのマイクロRNAメチル化機構の解明	西田尚弘	消化器外科	9,880,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

19

マイクロRNA分子のメチル化を網羅的に検出する革新的チップ技術の創出	西田尚弘	消化器外科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ヒト腸管粘膜固有層におけるCD11c陽性抗原提示細胞の系統的機能的解析	西村潤一	消化器外科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
OSNA法を用いた直腸癌側方リンパ節郭清省略への応用	畑泰司	消化器外科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
食道癌に対する化学療法感受性および副作用予測におけるABCトランスポーターの意義	牧野知紀	消化器外科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
炎症性腸疾患患者に対する自己脂肪由来幹細胞治療の安全性と有効性に関する研究	水島恒和	消化器外科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
スリーブ胃切除術における耐糖能改善機序の解明:糖代謝へ影響するグレリン変化の解析	宮崎安弘	消化器外科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
大腸発がん機構のゲノム、エピゲノムの網羅的解析情報に関する研究	森正樹	消化器外科	4,000,000	委	国立大学法人東京医科歯科大学
生体多光子励起イメージング技術を利用した新規低侵襲・高解像度がん診断装置の開発	森正樹	消化器外科	4,015,000	委	日本医療研究開発機構(AMED)
包括的統合的アプローチによる日本人早期肺癌の高精度診断の具現化	森正樹	消化器外科	43,290,000	補	独立行政法人日本学術振興会
体液中マイクロRNA測定技術基盤開発	森正樹	消化器外科	10,000,000	委	一般社団法人バイオ産業情報化コンソーシアム
「効果的な複合免疫療法の確立」(腫瘍組織内制御性T細胞の機能的・臨床病理学的解析技術の開発)	和田尚	消化器外科	20,000,000	委	日本医療研究開発機構(AMED)
癌細胞由来エクソソームによる腫瘍血管新生および浸潤転移機構の解明	和田浩志	消化器外科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
乳癌術前化学療法後の病理学的完全奏功(pCR)の術前診断システムの開発	金昇晋	乳腺・内分泌外科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
化学療法施行乳癌におけるOSNA法によるセンチネルリンパ節転移診断の有用性の検討	島津研三	乳腺・内分泌外科	2,210,000	補	独立行政法人日本学術振興会
トラスツマブ獲得耐性の機序:TGF- $\beta$ /SMAD経路と上皮間葉転換の関与	下田雅史	乳腺・内分泌外科	1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会
マイクロアレイを用いた乳癌腋窩リンパ節転移予測法の開発	直居靖人	乳腺・内分泌外科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
小腸移植における補体制御による新たな免疫抑制療法の開発	上野豪久	小児外科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
低出生体重児の腸管機能不全と消化管サーファクタントの関連性に関する研究	奥山宏臣	小児外科	1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会
低出生体重児消化管機能障害の疾患概念確立に向けた疫学調査研究	奥山宏臣	小児外科	1,338,000	補	厚生労働省

小計



リンパ管発生病因子の発現からみた脈管奇形(リンパ管腫)における新しい治療戦略	田附裕子	小児外科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
基礎医学研究者育成プログラム	和佐勝史	小児外科	22,971,000	委	東京大学
2光子励起顕微鏡を用いた眼球深部生体観察による緑内障マウス酸化ストレスの解析	臼井審一	眼科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
培養口腔粘膜上皮細胞シート移植後の角膜移植施行における摘出角膜組織の解析	大家義則	眼科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
自己集合性ペプチドを用いた新規徐放剤の開発	坂口裕和	眼科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
生体適合性架橋剤とフェムト秒レーザーを用いた角膜実質再生治療法の開発	相馬剛至	眼科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
角膜上皮バリア機能の詳細な解析とその再生医療への応用	辻川元一	眼科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
人工視覚の慢性長時間連続電気刺激が視機能及び視覚中枢系に与える影響についての検討	西田健太郎	眼科	910,000	補	独立行政法人日本学術振興会
希少難治性角膜疾患の疫学調査	西田幸二	眼科	25,010,000	補	厚生労働省
iPS細胞を用いた緑内障等メカノストレス性眼疾患の病態解明と治療開発	西田幸二	眼科	7,280,000	補	独立行政法人日本学術振興会
人間力活性化によるスーパー日本人の育成と産業競争力の増進／豊かな社会の構築	西田幸二	眼科	32,253,000	委	(独)科学技術振興機構
iPS細胞を用いた角膜再生治療法の開発	西田幸二	眼科	218,120,000	委	日本医療研究開発機構(AMED)
医療情報の高度利用による医療システムの研究開発/再生医療製品の有効性予測支援システムの研究開発	西田幸二	眼科	12,000,000	委	日本医療研究開発機構(AMED)
ミトコンドリアDNAの発現解析を通じた眼疾患における慢性炎症の病態解析	橋田徳康	眼科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
持続性細胞内シグナル活性異常を標的とした未熟児網膜症の新規治療法の開発	福嶋葉子	眼科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
電気刺激とアクチュエーター制御による焦点合わせが正確な調節可能眼内レンズの開発	不二門尚	眼科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
3D視聴時の視覚・生体反応	不二門尚	眼科	200,000	委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
脈絡膜上一経網膜刺激法による歩行可能な人工網膜の開発	不二門尚	眼科	50,000,000	補	文部科学省
電気刺激による統合的視覚回復の研究	不二門尚	眼科	5,590,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

進行性角膜形状異常疾患に対する早期治療および進行抑制法開発のための総合的研究	前田直之	眼科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
視神経乳頭周囲強膜クロスリンキングによる緑内障神経保護治療法開発	松下賢治	眼科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
緑内障患者における睡眠障害の研究	三木篤也	眼科	2,470,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ラマン分光法を用いた生体内ミトコンドリア機能の評価法の開発と視神経疾患の病態解明	森本社	眼科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
高速度撮影および電気声門図を用いた咳払い時の喉頭閉鎖障害の分析法の確立	小川真	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	780,000	補	独立行政法人日本学術振興会
網羅的タンパク解析によるヒトパピローマウイルス陽性中咽頭癌の治療抵抗性因子の同定	武本憲彦	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,470,000	補	独立行政法人日本学術振興会
グルコース取り込み阻害と放射線照射の癌への相乗効果	花本敦	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
転写因子Nkx3.2をターゲットとした変形性関節症(OA)治療法の確立	姥名耕介	整形外科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
BMP骨組織再生におけるテリパラチド併用効果の検討	海渡貴司	整形外科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
股関節疾患の病態と治療に関するkinematics・kineticsの解明	坂井孝司	整形外科	390,000	補	独立行政法人日本学術振興会
特発性大脳骨頭壊死症の疫学調査・診断基準・重症度分類の改訂と診療ガイドライン策定を目指した大規模多施設研究	菅野伸彦	整形外科	7,843,000	補	厚生労働省
筋肉減少症、骨粗鬆症、変形性関節症の包括的評価システムの構築	高尾正樹	整形外科	6,000,000	委	日本医療研究開発機構(AMED)
シュワン細胞ミトコンドリア機能制御による神経因性疼痛に対する新規治療法の開発	田中啓之	整形外科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
IL-17を標的としたDNAワクチンによる関節リウマチ骨破壊抑制治療の確立	富田哲也	整形外科	2,860,000	補	独立行政法人日本学術振興会
欠損を有する半月板損傷に対するコラーゲン半月板補填材を用いた治療法の開発	中田研	整形外科	26,000,000	補	文部科学省
ジャパン・スポーツ・サイバーフィジカルシステム(JS-CPS)構築研究事業拠点	中田研	整形外科	33,116,782	委	スポーツ庁
ロボットシステムによる半月板生体力学機能評価—半月機能温存治療の新たな評価法—	前達雄	整形外科	780,000	補	独立行政法人日本学術振興会
思春期特発性側弯症患者の3D椎体形態解析による椎体変形の可逆性についての検討	牧野孝洋	整形外科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
3次元シミュレーションによる四肢矯正システムの発展的開発	村瀬剛	整形外科	4,420,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

カスタマイズ手術ガイド及びカスタマイズ骨接合プレートを用いた上肢骨の変形を矯正するためのデバイス・インプラントの安全性及び有効性に関する臨床試験	村瀬剛	整形外科	23,940,000	補	文部科学省
幹細胞技術とティッシュエンジニアリングによる運動器変性疾患の機能的再建の確立	吉川秀樹	整形外科	2,006,100	委	(独)日本学術振興会
立体造形による機能的な生体組織製造技術の開発/細胞を用いた機能的な立体組織および立体臓器作製技術の研究開発/高機能足場素材とバイオ3Dプリンタを用いた再生組織・臓器の製造技術の開発	吉川秀樹	整形外科	7,000,000	委	日本医療研究開発機構(AMED)
iPS細胞由来軟骨細胞を用いた軟骨疾患再生治療法の開発拠点	吉川秀樹	整形外科	10,000,000	委	日本医療研究開発機構(AMED)
iPS細胞による次世代骨・軟骨再生療法のための培養誘導技術の開発	吉川秀樹	整形外科	3,510,000	補	独立行政法人日本学術振興会
三次元異方性カスタマイズ化設計・付加製造拠点の構築と地域実証	吉川秀樹	整形外科	7,202,479	委	新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
小児成育軟骨帯損傷における新規軟骨再生治療の確立	吉田清志	整形外科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
皮膚粗鬆症における表皮内コルチゾール再活性化酵素(11β-HSD1)の役割	越智沙織	皮膚科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
癌特異的アポトーシスを誘導する革新的分子標的薬による難治性皮膚癌に対する治療薬の医師主導臨床試験による実用化開発	片山一郎	皮膚科	80,000,000	補	文部科学省
ヒト白斑モデルTh17型マウスを用いた白斑発症機構の解明	片山一郎	皮膚科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
癌特異的アポトーシスを誘導する革新的分子標的薬による難治性皮膚癌に対する治療薬の医師主導臨床試験による実用化開発	片山一郎	皮膚科	70,000,000	補	文部科学省
精神神経病変と色素異常症発症に共通のmTORを介したオートファジー機構の解明	金田眞理	皮膚科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
皮膚悪性リンパ腫におけるガングリオシド解析と新規治療の可能性探索	清原英司	皮膚科	2,340,000	補	独立行政法人日本学術振興会
骨髄間葉系幹細胞動員ペプチドによる難治性皮膚潰瘍治療薬の開発	玉井克人	皮膚科	5,791,500	委	日本医療研究開発機構(AMED)
間葉系幹細胞動員因子HMGB1の皮膚恒常性維持機構解明と皮膚難病治療への応用	玉井克人	皮膚科	4,420,000	補	独立行政法人日本学術振興会
レックリングハウゼン病に着目したscarless wound healing	久保盾貴	形成外科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
細胞骨格制御因子をターゲットとした創傷治癒機構の解明	久保盾貴	形成外科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
自家神経グラフトと幹細胞を融合した強化型神経グラフトの開発	富田興一	形成外科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
幹細胞を融合したオーダーメイド型人工神経の開発	細川互	形成外科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

ポリビニルアルコールを用いた新しい乳房インプラント開発	矢野健二	形成外科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
血管新生とSema3Eをターゲットとした進行型多発性硬化症治療の試み	奥野龍禎	神経内科・脳卒中科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
RANKL/RANKをターゲットにした炎症制御による新規脳梗塞治療法の開発	島村宗尚	神経内科・脳卒中科	1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会
視神経脊髄炎(NMO)の新規酢酸PETの利用と層別化解析による個別化医療の確立	中辻裕司	神経内科・脳卒中科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
リピート長制御によるトリプレットリピート病の新規治療法の開発	中森雅之	神経内科・脳卒中科	7,280,000	補	独立行政法人日本学術振興会
伸長リピート特異的転写抑制によるリピート病の根源的治療開発	中森雅之	神経内科・脳卒中科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
パーキンソン病モデルにおける障害脳神経回路の同定及び機能的ネットワーク障害の神経生理学的バイオマーカーの開発	望月秀樹	神経内科・脳卒中科	9,450,000	委	日本医療研究開発機構(AMED)
中枢神経障害後の神経回路再編成と機能回復のメカニズムの解明	望月秀樹	神経内科・脳卒中科	7,800,000	委	日本医療研究開発機構(AMED)
パーキンソン病における $\alpha$ -シヌクレインの構造及び機能解析	望月秀樹	神経内科・脳卒中科	3,770,000	補	独立行政法人日本学術振興会
核酸医薬による遺伝性パーキンソン病の治療	望月秀樹	神経内科・脳卒中科	50,000,000	補	文部科学省
BMIを用いた運動・コミュニケーション機能の代替	望月秀樹	神経内科・脳卒中科	5,200,000	委	日本医療研究開発機構(AMED)
パーキンソン病マウモセットにおけるiPS由来 $\alpha$ -Syn蛋白伝播	望月秀樹	神経内科・脳卒中科	4,680,000	補	独立行政法人日本学術振興会
コネクティビティ解析による自閉症スペクトラム障害患者の脳内ネットワーク病態の解明	石井良平	神経科・精神科	1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会
人間力活性化によるスーパー日本人の育成と産業競争力の増進／豊かな社会の構築	石井良平	神経科・精神科	11,000,600	委	(独)科学技術振興機構
二連発磁気刺激による大脳皮質GABAニューロン機能評価法の精神神経疾患への応用	岩瀬真生	神経科・精神科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
革新的技術を活用し、加齢による脳機能低下と異常蛋白蓄積につながる病理過程の上流を追求・解明し、認知症の血液診断マーカーと治療薬を開発する	大河内正康	神経科・精神科	224,400,000	委	日本医療研究開発機構(AMED)
$A\beta$ 42産生増大と細胞内long $A\beta$ の $\gamma$ セクレターゼからの解離促進の関連	大河内正康	神経科・精神科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
認知症患者の紹介と評価	数井裕光	神経科・精神科	150,000	委	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
既存の大規模コホートデータを活用した網羅的解析の試み	喜多村祐里	神経科・精神科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

プレセニンγセクレターゼによるアミロイドβ切断が細胞内どこで起こるか？	田上真次	神経科・精神科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
革新的技術を活用し、加齢による脳機能低下と異常蛋白蓄積につながる病理過程の上流を追求・解明し、認知症の血液診断マーカーと治療薬を開発する	田中稔久	神経科・精神科	38,154,030	委	日本医療研究開発機構(AMED)
認知症に関連する細胞内異常蓄積蛋白の分解過程におけるリン酸化の影響	田中稔久	神経科・精神科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
統合失調症の脳画像・生理・認知行動解析による病態神経回路解明(疾患)	橋本亮太	神経科・精神科	15,600,000	委	日本医療研究開発機構(AMED)
中間表現型のポリジェニック解析	橋本亮太	神経科・精神科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
Imaging GWAS: 日本人脳皮質体積の全ゲノム解析	橋本亮太	神経科・精神科	4,680,000	補	独立行政法人日本学術振興会
統合失調症の脳画像・生理・認知行動解析による病態神経回路解明(総括)	橋本亮太	神経科・精神科	1,300,000	委	日本医療研究開発機構(AMED)
マウストランスクリプトミクス新戦略によるアルツハイマー病関連遺伝子同定と機能解析	森原剛史	神経科・精神科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
統合失調症リスク遺伝子ZNF804Aの中間表現型および機能解析	山森英長	神経科・精神科	1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会
神経腫瘍におけるテロメア関連遺伝子変化に基づいたバイオマーカーの探索	有田英之	脳神経外科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
新規自己組織由来オリゴデンドロサイト/シュワン前駆細胞による再生治療法の開発	大西論一郎	脳神経外科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
脳梁刺激による皮質興奮性の制御の試み	押野悟	脳神経外科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
WT1ペプチドワクチンを中心とした悪性神経膠腫幹細胞標的療法の探索	香川尚己	脳神経外科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
炎症関連サイトカインはてんかん発作症状のバイオマーカーとなるか？	貴島晴彦	脳神経外科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
簡便な反復経頭蓋磁気刺激およびデコーデッドニューロフィードバックによる難治性疼痛治療法の開発	齋藤洋一	脳神経外科	14,250,000	委	日本医療研究開発機構(AMED)
慢性疼痛に対する反復経頭蓋磁気刺激のメカニズム解明 ラットモデルのfMRI解析	齋藤洋一	脳神経外科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
脳梗塞急性期における皮質拡張性抑制とHMGB1核外放出の“負の連鎖”に関する研究	中村元	脳神経外科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
大容量体内・体外無線通信技術及び大規模脳情報処理技術の研究開発とBMIへの応用	平田雅之	脳神経外科	44,758,000	委	情報通信研究機構
体内埋込型集積回路内蔵フレキシブル超薄膜センサシートを用いたマーモセットの脳信号計測システムの開発	平田雅之	脳神経外科	17,246,153	委	日本医療研究開発機構(AMED)

小計

19

ブレインマシンインターフェイスを用いた嚥下機能の再建	平田雅之	脳神経外科	5,330,000	補	独立行政法人日本学術振興会
アンドロイドフィードバック(MEGIによるアンドロイド制御)	平田雅之	脳神経外科	14,850,000	委	(独)科学技術振興機構、国立研究開発法人科学技術振興機構
動物モデルを用いた中枢性脳卒中後疼痛の病態および神経刺激療法の除痛機序の解明	細見晃一	脳神経外科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
麻酔薬による記憶障害のメカニズム解明とその治療法の開発	井浦晃	麻酔科	2,470,000	補	独立行政法人日本学術振興会
虚血心不全への筋芽細胞シート移植に対する麻酔薬の影響	岩崎光生	麻酔科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
造影剤腎症発生メカニズムおよび術中血液濾過透析の治療効果の検討	柴田晶カール	麻酔科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
CRPS患者の運動障害における脳機能異常	柴田政彦	麻酔科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
iRNA導入神経細胞を用いたバイオイメージング:麻酔薬の神経保護、傷害機序の解明	澁田達史	麻酔科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
子宮頸部神経内分泌腫瘍の発生メカニズムの解析	上田豊	産科婦人科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
胎児期免疫寛容誘導の難治性皮膚疾患治療への応用	遠藤誠之	産科婦人科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
子宮内膜症を制御する新規接着因子の解明-iTRAQ法による網羅的解析を通じて	橋本香映	産科婦人科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
若年女性に対する漫画を用いた子宮がん検診受診勧奨	木村正	産科婦人科	340,600	補	大阪府
統一管理方針下・多施設共同前方視研究による反復早産予防と早産病態細分化への挑戦	木村正	産科婦人科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
骨髄由来免疫抑制細胞(MDSC)の腫瘍と妊娠における機能と制御に関する包括的研究	木村正	産科婦人科	16,770,000	補	独立行政法人日本学術振興会
妊娠高血圧症候群の成立機序の解明と、それに基づく予防方法、治療方法の開発	熊澤恵一	産科婦人科	5,720,000	補	独立行政法人日本学術振興会
腹膜播種はなぜ治療困難なのか?-マイクロRNAとエクソソームに焦点を当てた解析	澤田健二郎	産科婦人科	5,200,000	補	独立行政法人日本学術振興会
細胞間情報伝達機構に焦点をあてた子宮内膜症発症のメカニズムの解明	澤田健二郎	産科婦人科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
新しい3次元培養法とiTRAQ法を用いた子宮頸部小細胞癌特異的膜蛋白質の探索	高田友美	産科婦人科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
胎児脳循環・胎児脳組織酸素分圧から見た分娩管理-胎児二酸化炭素分圧の重要性-	高松拓治	産科婦人科	1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

骨髄由来細胞・前転移ニッチに着目した卵巣癌のVEGF阻害薬耐性メカニズムの検討	馬淵誠士	産科婦人科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ナノマテリアルを用いた胎盤形成異常モデルの確立をめざして	味村和哉	産科婦人科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
新しい初代3次元培養法を用いた子宮体癌の再発・播種に関するバイオマーカーの探索	吉野潔	産科婦人科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ダウン症における成長障害の発症機序—iPS細胞を用いた検討—	荒堀仁美	小児科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
心筋再生療法への応用を目指した新規心筋前駆細胞特異的表面マーカーの探索	石田秀和	小児科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
リソソーム蓄積病の病態に関するリソファジーのメカニズム	大友孝信	小児科	17,160,000	補	独立行政法人日本学術振興会
リソソームのターンオーバーと数に関する制御機構	大友孝信	小児科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ビスフォスフォネートによる骨細胞機能制御機構の解明	北岡太一	小児科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ダウン症候群の多様な症状を引き起こす21番染色体の病態責任領域の同定	北畠康司	小児科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
骨基質形成と骨石灰化カップリング機構の解明—スクレロステンを鍵分子として—	窪田拓生	小児科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ナトリウム利尿ペプチド受容体cGMP恒常産生変異による肺高血圧治療の多角的開発	小垣滋豊	小児科	2,470,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ライソソーム病におけるオートファジーの病態解明と治療薬スクリーニング法の開発研究	酒井規夫	小児科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
発達障害者の感覚特異性の脳磁図計測と再現モデルによる診断・評価・支援システム構築	下野九理子	小児科	2,730,000	補	独立行政法人日本学術振興会
脳磁場計測によるローランドてんかん児の言語認知障害機構の解明	下野九理子	小児科	2,730,000	補	独立行政法人日本学術振興会
キッズサポートセンターさかいにおける発達障害児支援業務	谷池雅子	小児科	14,000,000	委	堺市
精神・神経疾患バイオバンクにおける試料と情報の統合的管理と利活用推進のための基盤研究	谷池雅子	小児科	1,000,000	委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
小児における睡眠の量・質の指標となる生化学的マーカーの開発	谷池雅子	小児科	910,000	補	独立行政法人日本学術振興会
発達障害児(者)支援事業	谷池雅子	小児科	14,000,000	委	堺市
人間力活性化によるスーパー日本人の育成と産業競争力の増進／豊かな社会の構築	谷池雅子	小児科	37,900,200	委	(独)科学技術振興機構

小計

先天性GPI欠損症の治療法と診断マーカーの開発	富永康仁	小児科	910,000	補	独立行政法人日本学術振興会
Glut-1欠損症の新規診断法・治療法の開発	青天目信	小児科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
小児血液腫瘍マーカー中央診断の推進と小児血液腫瘍発生に関する免疫学的機序の検討	橋井佳子	小児科	900,000	委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
同種造血幹細胞移植後のWT1ペプチドワクチン療法における分子機構の解明とその制御	橋井佳子	小児科	780,000	補	独立行政法人日本学術振興会
小児心不全治療の多職種連携とPTLDの診断・維持管理の確立	橋井佳子	小児科	1,000,000	委	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
胆道閉鎖症の発症および肝内病変の進行における腸内細菌の役割の検討	別所一彦	小児科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ヒトiPS細胞をもちいた小児悪性腫瘍に対する新規免疫療法の開発	宮村能子	小児科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
小児・若年がん長期生存者に対する妊孕性のエビデンスと生殖医療ネットワーク構築に関する研究	三善陽子	小児科	6,906,000	補	厚生労働省
小児がん経験者の性腺機能と妊孕性維持に関する研究	三善陽子	小児科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
幼弱脳におけるプロスタグランジンD2を介したミクログリア-神経相関の解明	毛利育子	小児科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ラット腎移植モデルを用いた新規臓器保存液の開発	阿部豊文	泌尿器科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
標的細胞特異的 DDS技術を用いた免疫抑制siRNAによる移植臓器の免疫寛容誘導	市丸直嗣	泌尿器科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
腎癌における血液中バイオマーカーとなるmiRNA網羅的探索と新規核酸治療薬の開発	植村元秀	泌尿器科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
末梢血リンパ球の遺伝子プロファイルによる腎移植後免疫モニタリングの試み	角田洋一	泌尿器科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
転移巣に注目した治療抵抗性尿路上皮癌に対する新規治療標的因子の探索	河嶋厚成	泌尿器科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
前立腺肥大症における5 $\alpha$ 還元酵素 type3の機能解析:新たな治療ターゲット	木内寛	泌尿器科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
非破壊イメージング手法による、移植関連腎障害評価手法の確立	高原史郎	泌尿器科	1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会
精液・精漿中のマイクロRNA解析による男性不妊症診断法の開発	福原慎一郎	泌尿器科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
前立腺癌由来エクソソームを用いた癌進展機構の解明および新規尿中マーカーの開発	藤田和利	泌尿器科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計



非小細胞肺癌の治療効果評価用三次元的CT体積測定法の検討とバイオマーカーの創出	富山憲幸	放射線診断・IVR科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
統計アトラスを用いたコンピュータ支援診断システム: MRIによる肝線維化診断法	堀雅敏	放射線診断・IVR科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
肺癌に対する化学療法の効果予測と判定の為の腫瘍血流イメージング法の確立	梁川雅弘	放射線診断・IVR科	780,000	補	独立行政法人日本学術振興会
脳動脈瘤 壁動態と瘤内血流の統合解析による脳動脈瘤壁脆弱性予測に関する研究	渡邊嘉之	放射線診断・IVR科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
微粒子腫瘍マーカーリアルタイム3次元透視を融合した次世代高精度粒子線治療技術の開発	小川和彦	放射線治療科	11,032,000	委	日本医療研究開発機構(AMED)
子宮頸癌幹細胞における放射線抵抗性機序の解明と癌幹細胞標的放射線治療法の確立	小川和彦	放射線治療科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
320列CTとエアバックシステムによる、新規呼吸同期体幹部放射線照射法の開発	鈴木修	放射線治療科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
寡分割定位放射線治療における放射線生物学的最適化に関する研究	瀬尾雄二	放射線治療科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
化合物スクリーニングによる子宮頸癌の癌幹細胞を標的とした新規放射線増感剤の探索	玉利慶介	放射線治療科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
遠隔放射線治療の総合パッケージのモデルシステム作成	吉岡靖生	放射線治療科	910,000	補	独立行政法人日本学術振興会
多発性骨髄腫の第一選択薬メルファランの治療効果予測と判定: PET画像診断法の開発	磯橋佳也子	核医学診療科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
慢性脳低灌流における血液脳関門物質輸送能とアミロイドβ蓄積: 脳機能障害との関連	加藤弘樹	核医学診療科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
短寿命α線放射性核種(アスタテン)の体内分布と甲状腺癌集積性の評価	下瀬川恵久	核医学診療科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
酢アセチルコリン代謝のPETによる研究	畑澤順	核医学診療科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
食シグナルの認知科学の新展開と脳を活性化させる次世代機能性食品開発のグランドデザイン	畑澤順	核医学診療科	1,000,000	委	農業・食品産業技術総合研究機構
医薬品の体内動態の種差: PETマイクロドーズ臨床試験による研究	畑澤順	核医学診療科	10,400,000	補	独立行政法人日本学術振興会
先進医療制度による炭素11標識メチオニン自動合成装置の薬事承認に向けた取組み	畑澤順	核医学診療科	10,000,000	補	文部科学省
先進医療制度による炭素11標識メチオニン自動合成装置の薬事承認に向けた取組み	畑澤順	核医学診療科	10,000,000	委	国立大学法人北海道大学
肺保護を目的として経肺圧(=気道内圧—食道内圧)を制御する新しい人工呼吸法の開発	内山昭則	集中治療部	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

19

ハロペリドールによる樹状細胞のレドックス平衡を介した免疫制御	柏原三	集中治療部	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
腫瘍幹細胞の観点からみた新たな悪性リンパ腫の層別化	池田純一郎	病理診断科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
腫瘍幹細胞を標的としたプラズマ技術を用いた新たな腫瘍制御法の確立	池田純一郎	病理診断科	3,510,000	補	独立行政法人日本学術振興会
樹状細胞におけるSema4Aの細胞内小胞輸送機構の解明	野島聡	病理診断科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
NK/T細胞リンパ腫のプロテオーム解析による病態解明と臨床応用	本間圭一郎	病理診断科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
がんの低侵襲治療機器開発を行う上で必要となる研究プロトコルの作成と倫理審査への対応	森井英一	病理診断科	997,849	委	国立研究開発法人産業技術総合研究所
腫瘍幹細胞の観点からみた腫瘍の多様性を制御する機構の解明	森井英一	病理診断科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
	森井英一	病理診断科	4,841,206	補	文部科学省
リンパ形質細胞性リンパ腫での腫瘍幹細胞の陽性マーカー同定及びその動態解析	和田直樹	病理診断科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
行為分解木による医療プロセスのモデリングに関する研究	武田理宏	医療情報部	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
医用画像保管システムの効率的な画像保管および閲覧を実現するログ解析手法の研究	三原直樹	医療情報部	650,000	補	独立行政法人日本学術振興会
全身性炎症反応に対する新たな臓器障害戦略:新規若返り因子GDF11の有効性	小倉裕司	高度救命救急センター	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
侵襲時再生治療に関する研究:細胞移植法の確立と免疫応答制御メカニズムの解明	小倉裕司	高度救命救急センター	13,000,000	補	独立行政法人日本学術振興会
多剤耐性菌(CRE)疫学調査データ収集業務	朝野和典	感染制御部	700,000	委	茨木保健所
プレホスピタルでの心肺蘇生時における脳循環の解明	塩崎忠彦	高度救命救急センター	7,150,000	補	独立行政法人日本学術振興会
TORC及びHDAC制御機構の解明と新規低分子化合物による神経疾患治療法の開発	佐々木勉	神経内科・脳卒中科	500,000	補	独立行政法人日本学術振興会
腫瘍随伴性白血球増多を伴う子宮体癌の予後不良のメカニズムの検討	松本有里	産科婦人科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
新規肺炎診断法開発を目指した痰中好中球の細胞死の解析	吉田寿雄	感染制御部	2,303,752	補	独立行政法人日本学術振興会
生体内関節の三次元運動力学的動態解析システムの開発と臨床応用	佐原亘	リハビリテーション部	3,603,233	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

材料表面マイクロ形状による骨関連細胞の分化と機能の制御	名井陽	未来医療センター	2,231,754	補	独立行政法人日本学術振興会
3D内視鏡を用いた消化管機能の計測	渡部健二	消化器内科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
新規実験系を用いたインテグリン機能制御分子の解析、同定とその応用	富山佳昭	血液・腫瘍内科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
自閉スペクトラム症における感覚障害を用いた診断マーカーの開発および病態解明研究	安田由華	神経科・精神科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
プロスタサイクリンアゴニストONO101の肺再生治療の可能性	南正人	手術部	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
RANK系シグナルをターゲットとした脳梗塞における新規炎症制御ペプチドの開発	栗波仁美	老年・高血圧内科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
セプシス・外傷に対するリンパ球・好中球の生体反応からみた免疫学的病態解析法の確立	清水健太郎	高度救命救急センター	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
患者由来iPS細胞を用いた骨髄異成症候群における骨髄微小環境の役割に関する解析	江副幸子	未来医療センター	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
PETおよびMRIを用いた腫瘍内低血流域の特性評価	巽光朗	放射線部	1,368,064	補	独立行政法人日本学術振興会
ミダゾラムの樹状細胞に対する分子免疫学的作用メカニズムの解明	大田典之	集中治療部	1,446,978	補	独立行政法人日本学術振興会
塩分制限についての治療的患者教育に有効なシリアスゲームの開発	北村温美	中央クオリティマネジメント部	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
衝撃波外傷(爆傷)における呼吸・循環動態の変動に関する中素神経の役割	大西光雄	高度救命救急センター	2,340,000	補	独立行政法人日本学術振興会
自己抗体に着目した新規腹部大動脈瘤発症機転の検討	中神太志	老年・高血圧内科	2,340,000	補	独立行政法人日本学術振興会
耐性菌時代における既存抗菌薬のリバイバル使用の検討	萩谷英大	感染制御部	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
iTRAQ法を用いた網羅的膜蛋白質解析によるプラチナ耐性卵巣癌の新規治療法の樹立	松崎慎哉	産科婦人科	2,340,000	補	独立行政法人日本学術振興会
CRPSに対する集学的治療の効果と自発性脳活動異常との関連	植松弘進	麻酔科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
舌切除後の機能回復を目指した舌他家移植について	磯村恵美子	歯科治療室	1,333,943	補	独立行政法人日本学術振興会
悪性腫瘍関連凝固異常症による脳血管障害の実態調査と新規バイオマーカーの探索	坂口学	神経内科・脳卒中科	910,000	補	独立行政法人日本学術振興会
試験薬の直接的ベネフィットがない早期探索的臨床試験の倫理に関する研究	山本洋一	臨床試験部門	910,737	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

19

骨髄系造血器腫瘍からの樹状細胞の分化とその意義の解析	水木満佐央	化学療法部	1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会
急性心筋梗塞発症後の口腔衛生状態と生命予後および心血管事故発生との関連	砂真一郎	循環器内科	3,028,091	補	独立行政法人日本学術振興会
尿酸腎症におけるインフラマソームの関与と対抗するオートファジー	高橋篤史	腎臓内科	910,000	補	独立行政法人日本学術振興会
セマフォリンを介した神経・免疫クロストークによるアレルギー性鼻炎制御	前田陽平	耳鼻咽喉科	941,092	補	独立行政法人日本学術振興会
「ネッツ」の制御による重症患者に対する新しい治療戦略の提案	萩谷英大	感染制御部	260,000	補	独立行政法人日本学術振興会
形質転換と階層的複製能より見た治療抵抗性肝癌に対する個別化治療についての研究	浅岡忠史	手術部	130,000	補	独立行政法人日本学術振興会
細胞内シグナル伝達に着目した肝再生制御機構の解明と腫瘍細胞増殖制御への応用	浅岡忠史	医病 手術部	104,000	補	独立行政法人日本学術振興会
各種倫理委員会における非医学系委員の役割の実態調査と考察	山本洋一	臨床試験部門	429,000	補	独立行政法人日本学術振興会
PRISE主幹動脈病変を有する急性期虚血性脳血管障害における抗血小板反応性モニタリングの臨床的意義に関する研究 Platelet Reactivity Monitoring in Acute Ischemic Stroke	坂口学	神経内科・脳卒中科	32,398	委	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター
非小細胞肺癌手術適応症例に対する周術期hANP投与の多施設共同ランダム化第II相比較試験	奥村明之進	呼吸器外科	3,240,000	委	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター
治療効果判定におけるPETとその他の画像診断との比較検討に関する研究	巽光朗	放射線部	700,000	委	国立研究開発法人 国立がん研究センター
FDG-PET/CTの不明熱診断への応用ーガリウムSPECTとの比較研究	畑澤順	核医学診療科	100,000	委	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター
血液凝固異常症等に関する研究	富山佳昭	輸血部	1,500,000	委	慶應義塾大学
地域格差是正を通じた周産期医療体制の将来ビジョン実現に向けた先行研究	和田和子	小児科	400,000	委	埼玉医科大学
キャッスルマン病の疫学診療実態調査と患者団体支援体制の構築に関する研究	水木満佐央	血液・腫瘍内科	50,000	委	大阪大学 産業科学研究所
平成27年度未承認医薬品等臨床研究安全性確保支援事業補助金	金倉謙	病院長	226,856,778	委	日本医療研究開発機構
橋渡し研究加速ネットワークプログラム	澤芳樹	心臓血管外科	297,773,268	委	日本医療研究開発機構
神経エネルギー代謝の改善を指標とした認知症根本治療効果を発揮する生薬エキスの網羅的評価	佐々木勉	神経内科・脳卒中科	1,300,000	委	日本医療研究開発機構
再生医療等の産業化に向けた評価手法等の開発／重症心不全	澤芳樹	心臓血管外科	54,415,271	委	日本医療研究開発機構

小計

胃癌腹膜播種に対する5-アミノレブリン酸を用いた光力学的診断の有用性に関する研究CCT-B-2701	土岐祐一郎	消化器外科	8,218,348	委	日本医師会治験促進センター
「橋渡し研究加速ネットワークプログラム」/持続可能なネットワーク型中部先端医療開発拠点の形成	澤芳樹	心臓血管外科	2,232,617	委	国立大学法人名古屋大学
胎児における臨床試験推進に関する研究	遠藤誠之	産科・婦人科	1,300,000	委	国立成育医療研究センター
治験の実施に関する研究 [小児用補助人工心臓]CCT-C-2343	澤芳樹	心臓血管外科	474,170	委	日本医師会治験促進センター
胃癌腹膜播種に対する5-アミノレブリン酸を用いた光力学的診断の有用性に関する研究CCT-A-2602	土岐祐一郎	消化器外科	1,298,674	委	日本医師会治験促進センター
関節鏡視下自己骨髄間葉系幹細胞移植による関節軟骨欠損修復—多施設共同、非盲検、ランダム化、並行比較試験	名井陽	未来医療開発部	200,000	委	学校法人武庫川学院
上皮性卵巣癌・卵管癌・腹膜原発癌に対するPaclitaxel毎週点滴静注＋Carboplatin 3週毎点滴静注投与対Paclitaxel毎週点滴静注＋Carboplatin	木村正	産科・婦人科	100,000	委	学校法人埼玉医科大学
進行胃癌患者を対象とした審査腹腔鏡検査時におけるSPP-006を用いた光線力学診断の安全性及び有効性を検討する多施設共同試験(探索試験)CCT-C-2756	土岐祐一郎	消化器外科	591,027	委	日本医師会治験促進センター
間脳下垂体機能障害に関する長期予後調査研究	大月道夫	内分泌・代謝内科	364,000	委	国立病院機構京都医療センター
急性及び慢性神経障害における神経回路網とその代償機構の解明	望月秀樹	神経内科・脳卒中科	83,772	委	国立精神・神経医療研究センター
トシリズマブの成人発症スティル病に対する臨床試験	田中敏郎	免疫・アレルギー内科	500,000	委	学校法人慶應義塾大学

小計

12

社

370

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Kanzaki M, et al.	大阪大学大学院医学系研究科国際循環器学	A Development of Nucleic Chromatin Measurements as a New Prognostic Marker for Severe Chronic Heart Failure.	PLoS One. 2016 Feb 4;11(2):e0148209
2	Yamaguchi O, et al.	大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学	Receptor-mediated mitophagy.	J Mol Cell Cardiol. 2016 Jun;95:50-6.
3	Hirano K, et al.	大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学	Cardiomyocyte steatosis and defective washout of iodine-123-beta-methyl iodophenyl-pentadecanoic acid in genetic deficiency of adipose triglyceride lipase.	Eur Heart J. 2015 Mar 1;36(9):580.
4	Yasuhiro Ichibori, et al.	大阪大学医学部附属病院ハートセンター	Optical coherence tomography and intravascular ultrasound evaluation of cardiac allograft vasculopathy with and without intimal neovascularization	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2016 Jan;17(1):51-8
5	Sumitsuji S, et al.	大阪大学大学院医学系研究科国際循環器学	Reproducibility and clinical potential of myocardial mass at risk calculated by a novel software utilizing cardiac computed tomography information.	Cardiovasc Interv Ther.
6	Isaka Y, et al.	1Department of Geriatric Medicine and Nephrology, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita, Osaka, Japan. 2Laboratory of Host Defense, World Premier International Research Center Immunology Frontier Research Center, Osaka University.	Hyperuricemia-induced inflammasome and kidney diseases	Nephrology Dialysis Transplantation
7	Hamano T.	Department of Comprehensive Kidney Disease Research, Osaka University Graduate School of Medicine	Klotho upregulation by rapamycin protects against vascular disease in CKD.	Kidney Int., 88(4): Oct., P.660-2, 2015
8	Hamano T1, et al.	1:Department of Comprehensive Kidney Disease Research, Osaka University Graduate School of Medicine, 2:Department of Nephrology and Hypertension, Osaka General Medical Center, 3:Department of Internal Medicine, Atsugi City Hospital	Thresholds of iron markers for iron deficiency erythropoiesis-finding of the Japanese nationwide dialysis registry.	Kidney Int Suppl (2011), 5(1): Jun., P.23-32, 2015
9	Sakaguchi Y, et al.	Madnesium modifies the association between serum phosphate and the risk of progreeion to end-stage kidney disease in patients with non-diabetic kidney disease	Madnesium modifies the association between serum phosphate and the risk of progreeion to end-stage kidney disease in patients with non-diabetic kidney disease	Kidney International
10	Yamamoto T, et al.	Time-dependent dysregulation of autophagy:implication in aging and mitochondrial homeostasis in the kidney proximal tubule	Time-dependent dysregulation of autophagy:implication in aging and mitochondrial homeostasis in the kidney proximal tubule	Autophagy
11	依誠一	消化器内科	Evaluation of Fucosylated Haptoglobin and Mac-2 Binding Protein as Serum Biomarkers to Estimate Liver Fibrosis in Patients with Chronic Hepatitis C.	PLoS One
12	田畑優貴	消化器内科	The impact of an inosine triphosphate pyrophosphatase genotype on bilirubin increase in chronic hepatitis C patients treated with simeprevir, pegylated interferon plus ribavirin.	J Gastroenterol
13	鎌田佳宏	消化器内科	A novel noninvasive diagnostic method for nonalcoholic steatohepatitis using two glycobiomarkers.	Hepatology
14	辻井芳樹	消化器内科	Clinical outcomes of endoscopic submucosal dissection for superficial esophageal neoplasms: a multicenter retrospective cohort study.	Endoscopy.

小計

14

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
15	山田涼子	消化器内科	Impact of alpha-fetoprotein on hepatocellular carcinoma development during entecavir treatment of chronic hepatitis B virus infection.	J Gastroenterol
16	片上直人	内分泌代謝内科	Utility of Carotid Wall Shear Stress as a Predictor of Coronary Atherosclerosis.	J Atheroscler Thromb 2016;23(3):290-1.
17	片上直人	内分泌代謝内科	Collaborators on the Study of Preventive Effects of Alogliptin on Diabetic Atherosclerosis (SPEAD-A) Trial. Alogliptin, a dipeptidyl peptidase-4 inhibitor, prevents the progression of carotid atherosclerosis in patients with type 2 diabetes mellitus: The Study of Preventive Effects of Alogliptin on Diabetic Atherosclerosis (SPEAD-A).	Diabetes Care 2016 Jan;39(1):139-48.
18	高原充佳	内分泌代謝内科	Different impact of cardiovascular risk factors on arterial stiffness versus arterial wall thickness in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus.	J Atheroscler Thromb 22(9): 971-80, 2015
19	二宮浩世	内分泌代謝内科	Association between new onset diabetic retinopathy and monocyte chemoattractant protein-1 (MCP-1) polymorphism in Japanese type 2 diabetes.	Diabetic Research and Clinical Practice 2015, 108(3):e35-7
20	桂央士	内分泌代謝内科	The usefulness of a cholesterol absorption inhibitor in type 2 diabetic patients with dyslipidemia.	Diabetes Technology & Therapeutics 2015, 17(6):427-34.
21	高原充佳	内分泌代謝内科	An inverse U-shaped association of late and peak insulin levels during an oral glucose load with glucose intolerance in a Japanese population: a cross-sectional study.	Endocr J 2015;62(2):217-26.
22	高原充佳	内分泌代謝内科	Ameliorated pancreatic $\beta$ cell dysfunction in type 2 diabetic patients treated with a sodium-glucose cotransporter 2 inhibitor (pragliflozin).	Endocr J 2015;62(1):77-86.
23	久保典代	内分泌代謝内科	Positive conversion of GAD autoantibody in patients with presumed type 2 diabetes.	Acta Diabetol 2015 Jun;52(3):629-30.
24	佐々木周吾	内分泌代謝内科	Activation of GLP-1 and gastrin signalling induces in vivo reprogramming of pancreatic exocrine cells into beta cells in mice.	Diabetologia. 2015 Nov;58(11):2582-91
25	大澤彩恵子	内分泌代謝内科	Case of aniridia with a heterozygous PAX6 mutation in which the glucagon response to arginine was evaluated.	J Diabetes Investig. 2015 Jan;6(1):105-6.
26	下直樹	内分泌代謝内科	Short-term selective alleviation of glucotoxicity and lipotoxicity ameliorates the suppressed expression of key $\beta$ -cell factors under diabetic conditions.	Biochem Biophys Res Commun. 2015 Nov 27;467(4):948-54
27	松岡孝昭	内分泌代謝内科	Preserving Mafk expression in diabetic islet $\beta$ -cells improves glycemic control in vivo.	J Biol Chem. 2015 Mar 20;290(12):7647-57.
28	久保典代	内分泌代謝内科	Sustained expression of GLP-1 receptor differentially modulates $\beta$ -cell functions in diabetic and nondiabetic mice.	Biochem Biophys Res Commun. 471; 68-74; 2016

小計

14

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
29	久保典代	内分泌代謝内科	A case of diabetic ketoacidosis after everolimus treatment	Acta Diabetologica 2016 55:44182016
30	二宮浩世	内分泌代謝内科	Treatment of mitochondrial diabetes with a PPAR-gamma agonist	Internal Medicine 55;1143- 1147;2016
31	大澤彩恵子	内分泌代謝内科	Significant Elevation of Serum Dipeptidyl Peptidase-4 Activity in Young-adult Type 1 Diabetes	Diabetes Research and Clinical Practice 113;135- 142;2016
32	岩崎信吾	内分泌代謝内科	Coefficient of variation of R-R interval closely correlates with glycemic variability assessed by continuous glucose monitoring in insulin-depleted patients with type 1 diabetes.	Diabetes Res Clin Pract. 2015 Aug;109(2):397-403.
33	岩橋博見	内分泌代謝内科	Extent of weight reduction necessary for minimization of diabetes risk in Japanese men with visceral fat accumulation and HbA1c of 5.6-6.4%.	J Diabetes Investig. 2015 Sep;6(5):553-9.
34	黒田陽平	内分泌代謝内科	Hyperinsulinemic hypoglycemia syndrome associated with mutations in the human insulin receptor gene: Report of two cases.	Endocr J. 2015;62(4):353-62
35	藤田有可里	内分泌代謝内科	Increment of serum C-peptide measured by glucagon test closely correlates with human relative beta-cell area.	Endocr J. 2015;62(4):329-37.
36	馬殿恵	内分泌代謝内科	Establishment of a viral infection mimetic model in human iPS cell-derived insulin-producing cells and the anti-apoptotic effect of GLP-1 analogue	PLoS One. 2015 Dec 11;10(12):e0144606.
37	宮脇慈子	内分泌代謝内科	Differences in Emotional Distress among Inpatients with Type 1, Obese Type 2, and Non-Obese Type 2 Diabetes Mellitus	Intern Med. 2015;54(20):2561- 7.
38	田淵優希子	内分泌代謝内科	Clinical and endocrinological characteristics of adrenal incidentaloma in Osaka region, Japan.	Endocr J. 2016;63(1):29-35.
39	松田 圭介	内分泌代謝内科	Positive feedback regulation between adiponectin and T-cadherin impacts adiponectin levels in tissue and plasma of male mice.	Endocrinology. 2015 Mar;156(3):934-46.
40	堰本 良平	内分泌代謝内科	Visualized macrophage dynamics and significance of S100A8 in obese fat.	Proc Natl Acad Sci U S A. 2015 Apr 21;112(16):E2058- 66.
41	小林祥子	内分泌代謝内科	Favine/CCDC3 is involved in lipid accumulation.	J Biol Chem. 2015 Mar 20;290(12):7443-51.
42	玉田大介	内分泌代謝内科	Clinical significance of fluctuations in thyroid hormones after surgery for Cushing's syndrome.	Endocr J. 2015;62(9):805-10.

小計

14



## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
43	小野寺俊晴	内分泌代謝内科	Adipose tissue macrophages induce PPAR $\gamma$ -high FOXP3+ regulatory T cells.	Sci Rep. 2015 Nov 19;5:16801.
44	玉田大介	内分泌代謝内科	Postoperative changes in bone metabolism and bone mineral density in Japanese patients with acromegaly: a 3-year prospective study.	Endocr J. 2015;62(11):1031-6.
45	玉田大介	内分泌代謝内科	Clinical significance of screening for subclinical Cushing's disease in patients with pituitary tumors.	Endocr J. 2016;63(1):47-52.
46	東口将佳 他	呼吸器内科	Assessment of chemotherapy strategy using bevacizumab for non-squamous non-small cell lung cancer in a real world setting: A multi-institutional observational study.	Cancer Treat Commun. 5
47	甲原雄平 他	呼吸器内科	Dapsone hypersensitivity syndrome-related lung injury without eosinophilia in the bronchoalveolar lavage fluid.	Intern Med. 54(7):827-31, 2015
48	金倉謙、他	血液・腫瘍内科	Quantitative polymerase chain reaction analysis with allele-specific oligonucleotide primers for individual IgH VDJ regions to evaluate tumor burden in myeloma patients.	Exp Hematol. 2015 May;43(5):374-381.e2. doi: 10.1016/j.exphem.2015.01.002. Epub 2015 Jan 13.
49	織谷健司、他	血液・腫瘍内科	A multinational, open-label, phase 2 study of ruxolitinib in Asian patients with myelofibrosis: Japanese subset analysis.	Int J Hematol. 2015 Mar;101(3):295-304. doi: 10.1007/s12185-015-1746-8. Epub 2015 Feb 1.
50	金倉謙、他	血液・腫瘍内科	A new variant of acute promyelocytic leukemia with IRF2BP2-RARA fusion.	Cancer Sci. 2016 Aug;107(8):1165-8. doi: 10.1111/cas.12970.
51	Rakugi H, et al.	老年・高血圧内科	Add-on effect of hydrochlorothiazide 12.5 mg in Japanese subjects with essential hypertension uncontrolled with losartan 50 mg and amlodipine 5 mg.	Hypertens Res. 2015 May;38(5):329-35.
52	Yamamoto K, et al.	老年・高血圧内科	Oxidized LDL (oxLDL) activates the angiotensin II type 1 receptor by binding to the lectin-like oxLDL receptor.	FASEB J. 2015 Aug;29(8):3342-56.
53	Rakugi H, et al.	老年・高血圧内科	Preferable effects of olmesartan/calcium channel blocker to olmesartan/diuretic on blood pressure variability in very elderly hypertension: COLM study subanalysis.	J Hypertens. 2015 Oct;33(10):2165-72.
54	Taniyama Y, et al.	老年・高血圧内科	Selective Blockade of Periostin Exon 17 Preserves Cardiac Performance in Acute Myocardial Infarction.	Hypertension. 2016 Feb;67(2):356-61.
55	Kamida K, et al.	老年・高血圧内科	Smoking and lifestyle-related diseases (review)	Austin J Drug Abuse and Addict 3: 1008: 2016.
56	Ueno T	心臓血管外科	Pulmonary Valve Replacement With Fresh Decellularized Pulmonary Allograft for Pulmonary Regurgitation After Tetralogy of Fallot Repair- First Case Report in Japan.	Circ J. 2016;80(4):1041-3.

小計

14

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
57	Miyagawa S	心臓血管外科	Building A New Treatment For Heart Failure-Transplantation of Induced Pluripotent Stem Cell-derived Cells into the Heart.	Curr Gene Ther. 2016;16(1):5-13.
58	Maeda K	心臓血管外科	Early Outcomes in Japanese Dialysis Patients Treated With Transcatheter Aortic Valve Implantation.	Circ J. 2015;79(12):2713-9.
59	Nakamura T	心臓血管外科	Diabetes Mellitus Impairs Left Ventricular Mass Regression after Surgical or Transcatheter Aortic Valve Replacement for Severe Aortic Stenosis.	Heart Lung Circ. 2016 Jan;25(1):68-74.
60	Yoshioka D	心臓血管外科	Anemia Is a Risk Factor of New Intraoperative Hemorrhagic Stroke During Valve Surgery for Endocarditis.	Ann Thorac Surg. 2015 Jul;100(1):16-23.
61	Miyagawa S	心臓血管外科	Building a bridge to recovery: the pathophysiology of LVAD-induced reverse modeling in heart failure.	Surg Today. 2016 Feb;46(2):149-54.
62	Fukushima S	心臓血管外科	A sustained-release drug-delivery system of synthetic prostacyclin agonist, ONO-1301SR; a new reagent to enhance cardiac tissue salvage and/or regeneration in the damaged heart.	Heart Fail Rev. 2015 Jul;20(4):401-13.
63	Kashiyama N	心臓血管外科	Urgent transcatheter aortic valve replacement for severe aortic valve stenosis with acute decompensated heart failure; report of a case.	Surg Today. 2015 Jul;45(7):911-4.
64	Kashiyama N	心臓血管外科	Off-pump coronary artery bypass grafting via median sternotomy in a patient with a history of esophagectomy with substernal gastric tube reconstruction; report of a case.	Surg Today. 2015 Sep;45(9):1190-3.
65	Sawa Y	心臓血管外科	Current status of third-generation implantable left ventricular assist devices in Japan, Duraheart and HeartWare.	Surg Today. 2015 Jun;45(6):672-81.
66	Sawa Y	心臓血管外科	Transcatheter aortic valve implantation.	Surg Today. 2015 May;45(5):527-36.
67	奥村明之進	呼吸器外科	New biological role of thymectomy for myasthenia gravis	Novel challenges in myasthenia gravis
68	川村知裕	呼吸器外科	Camosol Is a Potent Lung Protective Agent: Experimental Study on Mice.	Transplant Proceedings
69	木村亨	呼吸器外科	C-type natriuretic peptide attenuates lipopolysaccharide-induced acute lung injury in mice	J Surg Res
70	木村亨	呼吸器外科	Protective Effects of C-type Natriuretic Peptide on Cisplatin-induced Nephrotoxicity in Mice	Cancer Chemother Pharmacol

小計

14

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
71	木村亨	呼吸器外科	Exacerbation of bleomycin-induced injury by lipopolysaccharide in mice: establishment of a mouse model for acute exacerbation of interstitial lung diseases	Eur J Cardiothorac Surg
72	新谷康	呼吸器外科	Pleuropneumonectomy for a large thymoma with multiple pleural dissemination using median sternotomy followed by posterolateral thoracotomy.	Surg Case Rep.
73	新谷康	呼吸器外科	Clinical usefulness of free subcutaneous fat pad for reduction of intraoperative air leakage during thoracoscopic pulmonary resection in lung cancer cases.	Surg Endosc.
74	舟木壮一郎	呼吸器外科	Global DNA hypomethylation coupled to cellular transformation and metastatic ability	FEBS letter
75	楠本英則	呼吸器外科	Combined Resection of Great Vessels or the Heart for Non-Small Cell Lung Cancer	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery
76	藤原綾子	呼吸器外科	Myasthenic Crisis Caused By Preoperative Chemotherapy With Steroid for Advanced Thymoma	Ann Thoracic Surg
77	藤原綾子	呼吸器外科	Granulocyte-colony stimulating +H18factor (G-CSF) producing malignant pleural mesothelioma; Report of a case	Thoracic cancer
78	Mukai Y, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Intrahepatic cholangiocarcinoma in a patient with Wilson's disease: a case report.	Surg Case Rep. 2016 Dec;2(1):29.
79	Higashi S, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	A case of transvaginal NOTES partial gastrectomy using new techniques and devices.	Surg Case Rep. 2015 Dec;1(1):96.
80	Sakai K, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	A resected case of liver metastases from extra-adrenal retroperitoneal paraganglioma with von Recklinghausen's disease 16 years after the initial surgery.	Surg Case Rep. 2015 Dec;1(1):84.
81	Hasegawa S, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Pre-treatment neutrophil to lymphocyte ratio as a predictive marker for pathological response to preoperative chemoradiotherapy in pancreatic cancer.	Oncol Lett. 2016 Feb;11(2):1560-1566.
82	Mokutani Y, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Down-Regulation of microRNA-132 is Associated with Poor Prognosis of Colorectal Cancer.	Ann Surg Oncol. 2016 Feb 11.
83	Koseki J, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Trans-omics Mathematical Analysis Reveals Novel Functions of the Ornithine Metabolic Pathway in Cancer Stem Cells.	Sci Rep. 2016 Feb 11;6:20726.
84	Miyazaki Y, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Treatment of gastric outlet obstruction that results from unresectable gastric cancer: Current evidence.	World J Gastrointest Endosc. 2016 Feb 10;8(3):165-72.

小計

14

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
85	Wada N, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Detecting Secondary C-KIT Mutations in the Peripheral Blood of Patients with Imatinib-Resistant Gastrointestinal Stromal Tumor.	Oncology. 2016;90(2):112-7.
86	Sueda T, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	BRAF V600E inhibition stimulates AMP-activated protein kinase-mediated autophagy in colorectal cancer cells	Sci Rep. 2016 Jan 11;6:18949.
87	Sakamoto T, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	A Histone Deacetylase Inhibitor Suppresses Epithelial-Mesenchymal Transition and Attenuates Chemoresistance in Biliary Tract Cancer.	PLoS One. 2016 Jan 4;11(1):e0145985.
88	Hasegawa S, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Cyclin G2: A novel independent prognostic marker in pancreatic cancer.	Oncol Lett. 2015 Nov;10(5):2986-2990.
89	Nishimura J, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	(18)F-Fluorodeoxyglucose positron emission tomography ((18)F-FDG PET) for the early detection of response to neoadjuvant chemotherapy for locally advanced rectal cancer.	Surg Today. 2015 Dec 28.
90	Mikamori M, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Postoperative Changes in Body Composition After Pancreaticoduodenectomy Using Multifrequency Bioelectrical Impedance Analysis.	J Gastrointest Surg. 2016 Mar;20(3):611-8.
91	Takahashi H, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Characteristics of carbonic anhydrase 9 expressing cells in human intestinal crypt base.	Int J Oncol. 2016 Jan;48(1):115-22.
92	Hasegawa S, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	A crucial epithelial to mesenchymal transition regulator, Sox4/Ezh2 axis is closely related to the clinical outcome in pancreatic cancer patients.	Int J Oncol. 2016 Jan;48(1):145-52.
93	Ueda M, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Clinical Significance of Expression of Nephroblastoma Overexpressed (NOV) in Patients with Colorectal Cancer.	Anticancer Res. 2015 Dec;35(12):6591-7.
94	Miyata H, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Impact of number of [(18)F]fluorodeoxyglucose-PET-positive lymph nodes on survival of patients receiving neoadjuvant chemotherapy and surgery for oesophageal cancer.	Br J Surg. 2016 Jan;103(1):97-104.
95	Saito T, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Which is a more reliable indicator of survival after gastric cancer surgery: Postoperative complication occurrence or C-reactive protein elevation?	J Surg Oncol. 2015 Dec;112(8):894-9.
96	Takiguchi S, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Laparoscopic mediastinal dissection via an open left diaphragm approach for advanced Siewert type II adenocarcinoma.	Surg Today. 2016 Jan;46(1):129-134.
97	Tamai K, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Single-site laparoscopic colectomy for rectosigmoid cancer with middle aortic syndrome: report of a case.	Surg Case Rep. 2015;1(1):53.
98	Yamasaki M, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Pattern of Lymphatic Spread of Esophageal Cancer at the Cervicothoracic Junction Based on the Tumor Location : Surgical Treatment of Esophageal Squamous Cell Carcinoma of the Cervicothoracic Junction.	Ann Surg Oncol. 2015 Dec;22 Suppl 3:S750-7.

小計

14

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
99	Fukuda S, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Laparoscopic surgery for esophageal achalasia: Multiport vs single-incision approach.	Asian J Endosc Surg. 2016 Feb;9(1):14-20.
100	Maekawa Y, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Comprehensive Geriatric Assessment is a useful predictive tool for postoperative delirium after gastrointestinal surgery in old-old adults.	Geriatr Gerontol Int. 2015 Aug 26.
101	Noguchi K, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Susceptibility of pancreatic cancer stem cells to reprogramming.	Cancer Sci. 2015 Sep;106(9):1182-7.
102	Takeyama H, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Erratum to: Platelet Activation Markers Are Associated with Crohn's Disease Activity in Patients with Low C-Reactive Protein.	Dig Dis Sci. 2015 Dec;60(12):3827.
103	Asukai K, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Prognostic Impact of Peritumoral IL-17-Positive Cells and IL-17 Axis in Patients with Intrahepatic Cholangiocarcinoma.	Ann Surg Oncol. 2015 Dec;22 Suppl 3:S1524-31.
104	Miyata H, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Clinical Outcome of Esophagectomy in Elderly Patients With and Without Neoadjuvant Therapy for Thoracic Esophageal Cancer.	Ann Surg Oncol. 2015 Dec;22 Suppl 3:S794-801.
105	Murakami K, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	$\omega$ -3 Fatty Acids Reduce Chemotherapy-Induced Hematological Toxicity by Bone Marrow Stimulation in Mice.	JPEN J Parenter Enteral Nutr. 2015 Jul 28.
106	Murakami K, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Perturbation of acyl ghrelin profile after liver transplantation.	J Surg Res. 2015 Dec;199(2):450-7.
107	Natatsuka R, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Gene therapy with SOCS1 for gastric cancer induces G2/M arrest and has an antitumour effect on peritoneal carcinomatosis.	Br J Cancer. 2015 Jul 28;113(3):433-42.
108	Miyata H, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Therapeutic value of lymph node dissection for esophageal squamous cell carcinoma after neoadjuvant chemotherapy.	J Surg Oncol. 2015 Jul;112(1):60-5.
109	Konno M, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Embryonic MicroRNA-369 Controls Metabolic Splicing Factors and Urges Cellular Reprograming.	PLoS One. 2015 Jul 15;10(7):e0132789.
110	Mokutani Y, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Effect of particle beam radiotherapy on locally recurrent rectal cancer: Three case reports.	Mol Clin Oncol. 2015 Jul;3(4):765-769.
111	Ogawa H, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	The combination of the expression of hexokinase 2 and pyruvate kinase M2 is a prognostic marker in patients with pancreatic cancer.	Mol Clin Oncol. 2015 May;3(3):563-571.
112	Mukai R, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	miR-615-3p expression level in bone marrow is associated with tumor recurrence in hepatocellular carcinoma.	Mol Clin Oncol. 2015 May;3(3):487-494.

小計

14

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
113	Nishikawa S, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Surgically resected human tumors reveal the biological significance of the gastric cancer stem cell markers CD44 and CD26.	Oncol Lett. 2015 May;9(5):2361-2367.
114	Nonaka R, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Circulating miR-103 and miR-720 as novel serum biomarkers for patients with colorectal cancer.	Int J Oncol. 2015 Sep;47(3):1097-102.
115	Miyo M, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Tumour-suppressive function of SIRT4 in human colorectal cancer.	Br J Cancer. 2015 Jul 28;113(3):492-9.
116	Takeyama H, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Platelet Activation Markers Are Associated with Crohn's Disease Activity in Patients with Low C-Reactive Protein.	Dig Dis Sci. 2015 Nov;60(11):3418-23.
117	Ueda M, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Overexpression of Transcription Termination Factor 1 is Associated with a Poor Prognosis in Patients with Colorectal Cancer.	Ann Surg Oncol. 2015 Dec;22 Suppl 3:S1490-8.
118	Tanaka K, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	miR-27 is associated with chemoresistance in esophageal cancer through transformation of normal fibroblasts to cancer-associated fibroblasts.	Carcinogenesis. 2015 Aug;36(8):894-903.
119	Ogawa H, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	MicroRNAs Induce Epigenetic Reprogramming and Suppress Malignant Phenotypes of Human Colon Cancer Cells.	PLoS One. 2015 May 13;10(5):e0127119.
120	Mizushima T, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Phase II Study of Oral Tegafur/Uracil and Leucovorin plus Bevacizumab as a First-Line Therapy for Elderly Patients with Advanced or Metastatic Colorectal Cancer.	Oncology. 2015;89(3):152-8. doi: 10.1159/000381718.
121	Nishimura J, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Combination antiemetic therapy with aprepitant/fosaprepitant in patients with colorectal cancer receiving oxaliplatin-based chemotherapy (SENRI trial): a multicentre, randomised, controlled phase 3 trial.	Eur J Cancer. 2015 Jul;51(10):1274-82.
122	Munakata K, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Gasless transumbilical laparoscopic-assisted appendectomy as a safe and cost-effective alternative surgical procedure for mild acute appendicitis.	Surg Today. 2016 Mar;46(3):319-25.
123	Fukuda S, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Use of double-lumen peripherally inserted central catheters for safer perioperative management of esophageal cancer patients.	J Vasc Access. 2015 Jul-Aug;16(4):338-43.
124	Takahashi H, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Significance of Polypyrimidine Tract-Binding Protein 1 Expression in Colorectal Cancer.	Mol Cancer Ther. 2015 Jul;14(7):1705-16.
125	Ogawa H, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Preoperative Chemoradiation Followed by Extensive Pelvic Surgery Improved the Outcome of Posterior Invasive Locally Recurrent Rectal Cancer without Deteriorating Surgical Morbidities: A Retrospective, Single-Institution Analysis.	Ann Surg Oncol. 2015 Dec;22(13):4325-34.
126	Tomimaru Y, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	De novo malignancy after pancreas transplantation in Japan.	Transplant Proc. 2015 Apr;47(3):742-5.

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
127	Kurokawa Y, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Preoperative systemic and intraperitoneal chemotherapy consisting of S-1, cisplatin and docetaxel in patients with marginally resectable gastric cancer.	Anticancer Res. 2015 Apr;35(4):2223-8.
128	Yanagimoto Y, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Comparison of pain management after laparoscopic distal gastrectomy with and without epidural analgesia.	Surg Today. 2016 Feb;46(2):229-34.
129	Fukuda S, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Pyruvate Kinase M2 Modulates Esophageal Squamous Cell Carcinoma Chemotherapy Response by Regulating the Pentose Phosphate Pathway.	Ann Surg Oncol. 2015 Dec;22 Suppl 3:S1461-8.
130	Mikami J, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Novel management of postoperative pain using only oral analgesics after LADG.	Surg Today. 2016 Jan;46(1):117-122.
131	Sugimura K, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	High infiltration of tumor-associated macrophages is associated with a poor response to chemotherapy and poor prognosis of patients undergoing neoadjuvant chemotherapy for esophageal cancer.	J Surg Oncol. 2015 May;111(6):752-9.
132	Nakashima S, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	BRCA/Fanconi anemia pathway implicates chemoresistance to gemcitabine in biliary tract cancer.	Cancer Sci. 2015 May;106(5):584-91.
133	Mizushima T, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Single-incision laparoscopic surgery for stricturing and penetrating Crohn's disease.	Surg Today. 2016 Feb;46(2):203-8.
134	Naito A, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	RFPL4A increases the G1 population and decreases sensitivity to chemotherapy in human colorectal cancer cells.	J Biol Chem. 2015 Mar 6;290(10):6326-37.
135	Tomimaru Y, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Feasibility of pre-operative chemoradiotherapy with gemcitabine to treat pancreatic cancer in patients with impaired renal function.	Jpn J Clin Oncol. 2015 Apr;45(4):343-8.
136	Yamada T, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Gastric endoscopic submucosal dissection under steady pressure automatically controlled endoscopy (SPACE); a multicenter randomized preclinical trial.	Surg Endosc. 2015 Sep;29(9):2748-55.
137	Takeyama H, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	A novel single-stapling technique for colorectal anastomosis: a pre-ligation single-stapling technique (L-SST) in a porcine model.	Surg Endosc. 2015 Aug;29(8):2371-6.
138	Inoue A, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	MicroRNA-29b is a Novel Prognostic Marker in Colorectal Cancer.	Ann Surg Oncol. 2015 Dec;22 Suppl 3:S1410-8.
139	Mikami J, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Postoperative gastrectomy outcomes in octogenarians with gastric cancer.	Surg Today. 2015 Sep;45(9):1134-8.
140	Miyazaki S, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	A Cancer Reprogramming Method Using MicroRNAs as a Novel Therapeutic Approach against Colon Cancer: Research for Reprogramming of Cancer Cells by MicroRNAs.	Ann Surg Oncol. 2015 Dec;22 Suppl 3:S1394-401.

小計

14

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
141	Takata A, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Effects of ghrelin administration on the early postoperative inflammatory response after esophagectomy.	Surg Today. 2015 Aug;45(8):1025-31.
142	Takiguchi S, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Clinical application of ghrelin in the field of surgery.	Surg Today. 2015 Jul;45(7):801-7.
143	Kurokawa Y, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Multicenter large-scale study of prognostic impact of HER2 expression in patients with resectable gastric cancer.	Gastric Cancer. 2015 Oct;18(4):691-7.
144	Miyata H, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Clinical Importance of Supraclavicular Lymph Node Metastasis After Neoadjuvant Chemotherapy for Esophageal Squamous Cell Carcinoma.	Ann Surg. 2015 Aug;262(2):280-5.
145	Tomimaru Y, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Clinical significance of surgical resection of metastatic lymph nodes from hepatocellular carcinoma.	Surg Today. 2015 Sep;45(9):1112-20.
146	Takiguchi S, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Laparoscopic intraoperative navigation surgery for gastric cancer using real-time rendered 3D CT images.	Surg Today. 2015 May;45(5):618-24.
147	Iwagami Y, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Implications of peritoneal lavage cytology in resectable left-sided pancreatic cancer.	Surg Today. 2015 Apr;45(4):444-50.
148	Tomimaru Y, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Intrahepatic cholangiocarcinoma in a worker at an offset color proof-printing company: An autopsy case report.	Hepatol Res. 2015 Apr;45(4):488-93.
149	Takahashi T, et al.	大阪大学大学院 外科学講座消化器外科学	Surgical strategy for the gastric gastrointestinal stromal tumors (GISTs) larger than 5 cm: laparoscopic surgery is feasible, safe, and oncologically acceptable.	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech. 2015 Apr;25(2):114-8.
150	Noguchi S, et al.	*Department of Breast and Endocrine Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine.	Phase 3, open-label, randomized study comparing 3-monthly with monthly goserelin in pre-menopausal women with estrogen receptor-positive advanced breast cancer	Breast Cancer
151	Okuyama H, et al.	小児外科	Risk factors for surgical intestinal disorders in VLBW infants: A case-control study.	Pediatr Int. 2016; 58(1):34-9.
152	Okuyama H, et al.	小児外科	Current Practice and Outcomes of Thoracoscopic Esophageal Atresia and Tracheoesophageal Fistula Repair: A Multi-institutional Analysis in Japan.	J Laparoendosc Adv Surg Tech A. 2015;25(5):441-4.
153	Saka R, et al.	小児外科	Immunolocalization of surfactant protein D in the liver from infants with cholestatic liver disease.	J Pediatr Surg. 2015 Feb;50(2):297-300.
154	Saka R, et al.	小児外科	Surfactant protein-D attenuates the lipopolysaccharide-induced inflammation in human intestinal cells overexpressing toll-like receptor 4.	Pediatr Surg Int. 2016;32(1):59-63.

小計

14



## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
155	Maeda A, et al.	小児外科	Monocytic MDSCs regulate macrophage-mediated xenogenic cytotoxicity.	Transplant Immunology.2015;33(2):140-5.
156	Maeda A, et al.	小児外科	Therapeutic potential of monocytic MDSCs from peripheral blood monocytes in transplant rejection.	Macrophage.
157	Sakai R, et al.	小児外科	Studies of pig complement: measurement of pig CH50, ACH51, and components.	Transplant Proc.2015;48(4):1282-4.
158	Sakai R, et al.	小児外科	Knockout of cytidine monophospho-N-acetylneuraminic acid (CMP-NeuAc) hydroxylase from porcine endothelial cells by a CRISPR system.	Transplant Proc.2015;48(4):1320-2.
159	Sakai R, et al.	小児外科	The Expression of A Synthetic Gene of CTDM by Transgenic Animals.	Transplant Proc.2015;48(4):1279-81.
160	Tazuke Y, et al.	小児外科	Long-term outcomes of four patients with tracheal agenesis who underwent airway and esophageal reconstruction.	J Pediatr Surg. 2015;50(12):2009-11.
161	Uehara S, et al.	小児外科	Perioperative management after high-dose chemotherapy with autologous or allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for pediatric solid tumors.	European Journal of Pediatric Surgery.2015;25(1):118-22.
162	Nakahata K, et al.	小児外科	Aldehyde Dehydrogenase 1 (ALDH1) Is a Potential Marker for Cancer Stem Cells in Embryonal Rhabdomyosarcoma	PLoS One.2015;10(4):e0125454.
163	Nakahata K, et al.	小児外科	Patient Satisfaction after Sclerotherapy of Venous Malformations in Children	Pediatr Int. DOI:10.1111/ped.12880
164	Umeda S, et al.	小児外科	Prenatal and Postnatal Clinical Course of an Urachus Identified as an Allantoic Cyst in the Umbilical Cord.	Eur J Pediatr Surg. 2016;26(2):200-2.
165	Matsuura R, et al.	小児外科	Human HLA-Ev(147) expression in Transgenic Animals.	Transplant Proc. 2016;48(4):1323-5.
166	Yamamichi T, et al.	小児外科	Clinical application of indocyanine green (ICG) fluorescent imaging of hepatoblastoma.	J Pediatr Surg. 2015;50(5):833-6.
167	Matsui T, et al.	病理診断科、消化器外科	Poorly differentiated hepatocellular carcinoma accompanied by anti-Hu antibody-positive paraneoplastic peripheral neuropathy.	Pathol Int. 2015 Jul;65(7):388-92. doi: 10.1111/pin.12304. Epub 2015 May 4.
168	Hirose K, et al.	病理診断科、消化器外科	Atypical glomus tumor arising in the liver: a case report.	Diagn Pathol. 2015 Jul 19;10:112. doi: 10.1186/s13000-015-0355-4.

小計

14

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
169	Watanabe S, et al.	Department of OphthalmologyOsaka University Graduate School of Medicine	Relationship between corneal guttae and quality of vision in patients with mild Fuchs' endothelial corneal dystrophy	Ophthalmology
170	Duncan TJ, et al.	Department of OphthalmologyOsaka University Graduate School of Medicine	A novel method using quantum dots for testing the barrier function of cultured epithelial cell sheets	Invest Ophthalmol Vis Sci
171	Endo T, et al.	Department of Applied Visual ScienceOsaka University Graduate School of Medicine	False reaching movements in localization test and effect of auditory feedback in simulated ultra-low vision subjects and patients with retinitis pigmentosa	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol
172	Chikako Hara, et al.	Department of OphthalmologyOsaka University Graduate School of Medicine	ONE-YEAR RESULTS OF INTRAVITREAL AFLIBERCEPT FOR POLYPOIDAL CHOROIDDAL VASCULOPATHY	RETINA 2016 Jan;36(1):37-45
173	Nishida K, et al.	Department of OphthalmologyOsaka University Graduate School of Medicine, Asociacion Para Evitar la Ceguera	Visual Sensation by Electrical Stimulation Using a New Direct Optic Nerve Electrode Device.	Brain Stimulation
174	Iwahashi G, et al.	Department of Ophthalmology	Incidence and clinical features of recurrent Vogt-Koyanagi-Harada disease in Japanese individuals.	Jpn J Ophthalmol.2015 May;59(3):157-63.
175	Sogawa T, et al.	Department of Ophthalmology	Rare Association of Perivascular Granulomatous Lesions in a Patient with Acute Retinal Necrosis.	Case Rep Ophthalmol. 2015 Nov 21;6(3):373-9.
176	Hosokawa K,et al.	Department of Otorhinolaryngology - Head and Neck Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine	Does cervical muscular contraction affect the measurement of electroglottographic perturbation parameters?	J Voice 2015; 29: 660-669.
177	Inohara H, et al.	Department of Otorhinolaryngology - Head and Neck Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine	Phase 2 study of docetaxel, cisplatin, and concurrent radiation for technically resectable stage III-IV squamous cell carcinoma of the head and neck.	Int J Radiat Oncol Biol Phys.
178	Takao Imai	Department of Otorhinolaryngology - Head and Neck Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine	High-Speed Video-Oculography for Measuring Three-Dimensional Rotation Vectors of Eye Movements in Mice	PLOS ONE
179	Shimomura K, et al.	Department of Orthopaedic Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine	Next Generation Mesenchymal Stem Cell (MSC)-Based Cartilage Repair Using Scaffold-Free Tissue Engineered Constructs Generated with Synovial Mesenchymal Stem Cells.	Cartilage
180	Yasui Y, et al.	Department of Orthopaedic Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine	Preparation of Scaffold-Free Tissue-Engineered Constructs Derived from Human Synovial Mesenchymal Stem Cells Under Low Oxygen Tension Enhances Their Chondrogenic Differentiation Capacity.	Tissue Eng Part A.
181	Tachibana Yuta	Osaka University Graduate School of Medicine	Morphological changes in femoral tunnels after anatomic anterior cruciate ligament reconstruction.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc.
182	竹中聡	大阪大学整形外科、友誼会総合病院、大阪府立成人病センター、河内総合病院、大阪医療センター、姫路赤十字病院	Treatment outcomes of Japanese patients with Ewing sarcoma: differences between skeletal and extraskeletal Ewing sarcoma	Japanese Journal of Clinical Oncology.2016;46(6)522-8

小計

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
183	富田興一	形成外科	Differential reanimation of the upper and lower face using 2 interpositional nerve grafts in total facial nerve reconstruction.	Plastic and Reconstructive Surgery Global Open 3(10):e544 2015
184	富田興一	形成外科	Adipose-derived stem cells protect against endoneurial cell death: Cell therapy for nerve autografts.	Microsurgery 35(6):474-80 2015
185	Nakamori M, et al.	Department of Neurology Osaka University Graduate School of Medicine Osaka Japan.	Oral administration of erythromycin decreases RNA toxicity in myotonic dystrophy.	Ann Clin Transl Neurol. 3(1), 42-54, 2016
186	Tanimukai H	精神医学	Fluvoxamine alleviates paclitaxel-induced neurotoxicity.	Biochem Biophys Reports (査読あり) 4, 202-206, 2015
187	Hashimoto R	精神医学	Imaging genetics and psychiatric disorders.	Current Molecular Medicine. 15(2):168-175, 2015
188	Yamamori H	精神医学	Assessment of a multi-assay biological diagnostic test for mood disorders in a Japanese population	Neurosci Lett. 612:167-171,2015
189	Kazui H	精神医学	Lumboperitoneal shunt surgery for idiopathic normal pressure hydrocephalus (SINPHONI-2): an open-label randomised trial.	Lancet Neurol.14(6):585-594, 2015
190	藤本康倫	脳神経外科	Endoscopic combined "transseptal/transnasal" approach for pituitary adenoma; reconstruction of skull base using pedicled nasoseptal flap in 91 consecutive cases.	Arq neuropsiquiatr 2015 Jul;73(7):611-5
191	藤本康倫	脳神経外科	Superior Turbinectomy: Role for a Two-surgeon Technique in Endoscopic Endonasal Transsphenoidal Surgery—Technical Note	Neurol Med Chir (Tokyo). 2015 Apr; 55(4): 345-350.
192	後藤雄子	脳神経機能再生学/脳神経外科(兼任)	Application of atelocollagen sheet for sellar reconstruction	Journal of clinical neuroscience. 2016 May;27:142-6.
193	後藤雄子	脳神経機能再生学/脳神経外科(兼任)	Prediction of malignant middle cerebral artery infarction in elderly patients	Journal of stroke and cerebrovascular diseases. 2016 Jun;25(6):1389-95.
194	浅井 克則	脳神経外科	Direct aspiration first pass technique for a middle cerebral artery occlusion with a hidden aneurysm	Interventional Neuroradiology
195	Iwatsuki K, et al.	Department of Neurosurgery, Osaka University Medical School,	Feasibility of the Posterior Approach for Removal of Ventrolateral Extended Intradural Tumors	Indian J Re 5:74-76, 2016
196	Iwatsuki K, et al.	1 Department of Neurosurgery, Osaka University Medical School, 2 Department of Rehabilitation Medicine, Wakayama Medical University 3 Center for Cybernetics Research, University of Tsukuba.	Motor evoked potential and voluntary EMG activity after olfactory mucosal autograft transplantation in a case of chronic, complete spinal cord injury: case report	Spinal Cord Series and Cases 1:15018, 2016

小計

14

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
197	Iwatsuki K, et al.	Department of Neurosurgery, Osaka University Medical School,	Acute tetraplegia after trivial neck injury revealed a cervical intraspinal neurenteric cyst in a child.	J Spine 4:227-230, 2015
198	Iwatsuki K, et al.	Department of Neurosurgery, Osaka University Medical School,	Early diagnosis of spontaneous spinal epidural hematoma with echo-planar.	Neurosci Med 6:20-23, 2015
199	Ohnishi Y, et al.	Department of Neurosurgery, Osaka University Medical School,	Isolation of human adult olfactory sphere cells as a cell source of neural progenitors.	Stem Cell Res 15:23-29, 2015
200	Ohnishi Y, et al.	Department of Neurosurgery, Osaka University Medical School,	Cervical osteomyelitis with thoracic myelitis and meningitis in a diabetic patient	Clin Med Insights Case Rep. 2015 May 12;8:37-40
201	Ohnishi Y, et al.	1Department of Neurosurgery, Osaka University Medical School, 2Department of Neurosurgery, Osaka Neurological Institute,	A Case of Apoplexy of Rathke's Cleft Cyst Followed by Cerebral Infarction	Case Rep Neurol Med. 2015;2015:645370
202	Ohnishi Y, et al.	Department of Neurosurgery, Osaka University Medical School,	Differences between Cervical Schwannomas of the Anterior and Posterior Nerve Roots in Relation to the Incidence of Postoperative Radicular Dysfunction.	Asian Spine J. 2015 Apr;9(2):263-70
203	Ohnishi Y, et al.	Department of Neurosurgery, Osaka University Medical School,	A case of occipito-thoracic fusion for skull base and cervical multiple myeloma.	J Spine 4:217, 2015
204	Ohnishi Y, et al.	Department of Neurosurgery, Osaka University Medical School,	Adequate decompression of adult lumbar intradural lipoma without dysraphism using a monopolar stimulation electrode for intraoperative monitoring: case report.	J Spine 4: 213, 2015
205	Ohnishi Y, et al.	Department of Neurosurgery, Osaka University Medical School,	Olfactory sphere cells are a cell source for $\gamma$ -aminobutyric acid-producing neurons.	J Neurosci Res. 2015 Aug;93(8):1293-304
206	Ohnishi Y, et al.	Department of Neurosurgery, Osaka University Medical School,	Assessment of cervical screw trajectory using 3-dimensional software planning	OJMN 5:6-11, 2015
207	Ohnishi Y, et al.	Department of Neurosurgery, Osaka University Medical School,	Retro-odontoid synovial cyst resected via an anterolateral approach without fusion.	Eur Spine J. 2015 May;24 Suppl 4:S508-13
208	Shayne M, et al.	大阪大学大学院医学系研究科脳神経外科、河内総合病院、大阪大学大学院工学研究科	Patient specific cortical electrodes for sulcal and gyral implantation	IEEE TRANSACTIONS ON BIOMEDICAL ENGINEERING 62(4):1034-41 2015
209	Bessho K	小児科	Complications and Quality of Life in Long-Term Survivors of Biliary Atresia with Their Native Livers	J Pediatr
210	Kubota T, et al.	小児科	Serum NT-proCNP levels increased after initiation of GH treatment in patients with achondroplasia/hypochondroplasia.	Clin Endocrinol (Oxf).

小計

14

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
211	Tachibana M, et al.	小児科	Pathological examination of the placenta in small for gestational age (SGA) children with or without postnatal catch-up growth.	J Matern Fetal Neonatal Med
212	Miyoshi Y, et al.	小児科	Gonadal function, fertility, and reproductive medicine in childhood and adolescent cancer patients: a national survey of Japanese pediatric endocrinologists.	Clin Pediatr Endocrinol
213	Onishi H, et al.	放射線診断・IVR科	Low-Dose Pevic Computed Tomography Using Adaptive Iterative Dose Reduction 3-Dimensional Algorithm: A Phantom Study.	J Comput Assist Tomogr. 39(4):629-634, 2015
214	Yoshioka Y1, et al.	1Department of Radiation Oncology, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan. 2Department of Urology, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan. 3Department of Radiation Oncology, Osaka Medical College, Osaka, Japan. 4Department of	High-dose-rate brachytherapy as monotherapy for intermediate- and high-risk prostate cancer: Clinical results for a median 8-year follow-up.	Int J Radiat Oncol Biol Phys 2016;94:675-82
215	Isohashi K, et al.	医学系研究科:核医学講座、血液・腫瘍内科学、医薬分子イメージング学寄附講座 医学部附属病院:放射線部	Prognostic Value of FDG-PET, Based on the Revised Response Criteria, in Patients with Malignant Lymphoma: A Comparison with CT/MRI Evaluations, Based on the International Working Group/Cotswolds Meeting Criteria.	Asia Ocean J Nucl Med Biol. 2015 Summer;3(2):91-8.
216	Sakuragi M, et al.	輸血部	Clinical significance of IPF% or RP% measurement in distinguishing primary immune thrombocytopenia from aplastic thrombocytopenic disorders.	Int J Hematol.
217	Mihara N, et al.	Medical Informatics, Osaka University Hospital	Cross-institutional document exchange system using clinical document architecture (CDA) with virtual printing method.	Stud Health Technol Inform.210:444-8. 2015
218	Takeda T, et al.	Medical Informatics, Osaka University Graduate School of Medicine	A template-based computerized instruction entry system helps the communication between doctors and nurses.	Stud Health Technol Inform. 210:271-5.2015
219	松本 寿健 外	高度救命救急センター	Effect of lipid emulsion during resuscitation of a patient with cardiac arrest after overdose of chlorpromazine and mirtazapine	American Journal of Emergency Medicine Vol.33 No.10 1541.e1~1541.e2 2015
220	酒井 智彦 外	高度救命救急センター	Cardiopulmonary Resuscitation Support Application on a Smartphone -Randomized Controlled Trial-	Circulation Journal Vol.79 No.5 1052~1057 2015
221	清水 健太郎 外	高度救命救急センター	Gut microbiota and environment in patients with major burns - a preliminary report.	Burns vol.41 No.3 e28~e33 2015
222	梅村 穰 外	高度救命救急センター	Design and Evaluation of New Unified Criteria for Disseminated Intravascular Coagulation Based on the Japanese Association for Acute Medicine Criteria	Clinical and Applied Thrombosis/Hemostasis Vol.22 No.2 153~160 2016
223	梅村 穰 外	高度救命救急センター	Efficacy and safety of anticoagulant therapy in three specific populations with sepsis: a meta-analysis of randomized controlled trials	Journal of Thrombosis and Haemostasis Vol.14 No.3 518~530 2016
224	辻井 芳樹	消化器内科	Integrated diagnostic strategy for the invasion depth of early gastric cancer by conventional endoscopy and EUS.	Gastrointestinal Endoscopy

小計

14

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
225	Hagihira S	麻酔科	Changes in the EEG during anaesthesia and their physiological background	British Journal of Anaesthesia
226	Sumikura H	東京大学医学部麻酔学教室	Rethinking general anesthesia for cesarean section	J Anesth.
227	Iguchi N	麻酔科	Neutrophil gelatinase-associated lipocalin and liver-type fatty acid-binding protein as biomarkers for acute kidney injury after organ transplantation	Br J Anaesth
228	Matsumoto A	市立豊中病院	Haloperidol suppresses murine dendritic cell maturation and priming of the T helper 1-type immune response	J Anesth
229	Imada T	麻酔科	Intraoperative right ventricular fractional area change is a good indicator of right ventricular contractility: a retrospective comparison using two- and three-dimensional echocardiography	J Anesth
230	Iritakenishi T	麻酔科	Predictors of prolonged hemodynamic compromise after valve deployment during transcatheter aortic valve implantation	J Cardiothorac Vasc Anesth
231	Matsuda Y	麻酔科	Pain-related brain activity evoked by active and dynamic arm movement: delayed-onset muscle soreness (DOMS) as a promising model for studying movement-related pain in humans	Pain Med
232	Shibuta S	麻酔科	Only extra-high dose of Ketamine affects L-glutamate-induced intracellular Ca <sup>2+</sup> elevation and neurotoxicity.	Neurosci Res
233	Matsumoto Y	国立成育医療研究センター	Transversus abdominis plane block for bilateral orchiopexy in an 8-year-old patient with Eisenmenger's syndrome	JA Clinical Reports
234	Miyata Y	桜橋渡辺病院	Prophylactic antiarrhythmic effect of anesthetics at subanesthetic concentration on epinephrine-induced arrhythmias in rats after brain death	Biomed Res Intern
235	Matsumoto Y	国立成育医療研究センター	Anesthetic management of a patient with a biventricular assist device who was scheduled for aortic and pulmonary valve closure	J Cardiothorac Vasc Anesth
236	Matsumoto Y	国立成育医療研究センター	Early postoperative management of heart transplant recipients with current ventricular assist device support in Japan: experience from a single center	J Anesth
237	Okitsu K	麻酔科	Dependent lung tension pneumothorax during 1-lung ventilation: treatment by transmediastinal thoracentesis	A&A Case Reports
238	Kobayashi, E. et al.	産婦人科	A novel device for cleaning the camera port during laparoscopic surgery	Surg Endosc, 30(1): 330-4, 2016

小計

14

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
239	Tanaka, Y. et al.	産婦人科	Early metabolic change in (18)F-FDG-PET by measuring the single largest lesion predicts chemotherapeutic effects and patients' survival: PEACH study	Cancer Chemother Pharmacol, 77: 121-6, 2016
240	Matsuzaki, S. et al.	産婦人科	Cesarean delivery via a transverse uterine fundal incision for the successful management of a low-lying placenta and aplastic anemia	Clin Exp Obstet Gynecol, 43: 262-4, 2016
241	Ueda, Y. et al.	産婦人科	Evaluation of a free-coupon program for cervical cancer screening among the young: a nationally funded program conducted by a local government in Japan	J Epidemiol, 25: 50-56, 2015
242	Egawa-Takata, T. et al.	産婦人科	Human papillomavirus vaccination of the daughters of obstetricians and gynecologists in Japan	Int J Clin Oncol, 27: 53-58, 2016
243	Takaoka, S. et al.	産婦人科	Clinical features and antenatal risk factors for postpartum-onset hypertensive disorders	Hypertension in Pregnancy
244	Shigeta, N. et al.	産婦人科	Laparoscopic excisional surgery for growing teratoma syndrome of the ovary: case report and literature review	J Minim Invasive Gynecol
245	Shigeta, N. et al.	産婦人科	Severe micrognathia with 21 trisomy assessed prenatally by performing three-dimensional computed tomography	Congenit Anom (Kyoto)
246	Yamashita, M. et al.	産婦人科	Incidence and risk factors for recurrent spontaneous preterm birth: A retrospective cohort study in Japan	J Obstet Gynaecol Res
247	高橋 恵	産婦人科	Immune tolerance induction using fetal directed placental injection in rodent models: a murine model	PLoS One
248	西川 愛子	産婦人科	Thrombocytopenia associated with Mycoplasma pneumonia during pregnancy: case presentation and approach for differential diagnosis	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research
249	柿ヶ野 藍子	産婦人科	Drug repositioning for preeclampsia therapeutics by in vitro screening: phosphodiesterase-5 inhibitor vardenafil restores endothelial dysfunction via induction of placental growth factor	Reproductive Sciences
250	藤本 哲	産婦人科	Hydroxylated fullerene: a potential antiinflammatory and antioxidant agent for preventing mouse preterm birth	American Journal of Obstetrics & Gynecology
251	富松 拓治	産婦人科	Massive cystic degeneration of a uterine leiomyoma in a patient with autosomal dominant polycystic kidney disease	Gynecol Obstet Invest
252	Mabuchi, S. et al.	産婦人科	First two cases of primary carcinoma of the vagina successfully treated with concurrent weekly carboplatin plus paclitaxel, external beam radiotherapy and high-dose-rate interstitial brachytherapy: a case report and published work review.	J Obstet Gynaecol Res

小計

14

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
253	Mabuchi, S. et al.	産婦人科	The PI3K/AKT/mTOR pathway as a therapeutic target in ovarian cancer.	Gynecol Oncol
254	Kinose, Y. et al.	産婦人科	IKKbeta regulates VEGF expression and is a potential therapeutic target for ovarian cancer as an antiangiogenic treatment.	Mol Cancer Ther
255	Kinose, Y. et al.	産婦人科	The hypoxia-related microRNA miR-199a-3p displays tumor suppressor functions in ovarian carcinoma.	Oncotarget
256	Mabuchi, S. et al.	産婦人科	Real-time tissue sonoelastography for early response monitoring in cervical cancer patients treated with definitive chemoradiotherapy: preliminary results.	J Med Ultrason (2001)
257	Wataya-Kaneda M, et al.	皮膚科	Clinical and Histologic Analysis of the Efficacy of Topical Rapamycin Therapy Against Hypomelanotic Macules in Tuberous Sclerosis Complex	JAMA Dermatol
258	阿部 豊文	泌尿器科	Anti-huCD20 antibody therapy for antibody-mediated rejection of renal allografts in a mouse model.	Am J Transplant. 2015 May;15(5):1192-204
259	川村 憲彦	泌尿器科 遺伝子治療学	CRISPR/Cas9-mediated gene knockout of NANOG and NANOGP8 decreases the malignant potential of prostate cancer cells.	Oncotarget. Sep 8;6(26):22361-74, 2015
260	福原 慎一郎	泌尿器科	Functional role of DNA mismatch repair gene PMS2 in prostate cancer cells.	Oncotarget 2015 Jun 30;6(18):16341-51.
261	藤田和利	泌尿器科	Role of adjuvant chemotherapy for lymph node-positive upper tract urothelial carcinoma and the prognostic significance of C-reactive protein: A multi-institutional, retrospective study.	Int J Urol
262	藤田和利	泌尿器科	Endoglin expression in upper urinary tract urothelial carcinoma is associated with intravesical recurrence after radical nephroureterectomy.	Int J Urol
263	深尾 真理	大阪大学医学部附属病院医療技術部放射線部門	Optimization of dual-energy subtraction chest radiography by use of a direct-conversion flat-panel detector system	Radiology Physics and Technology. 8:46-52, 2015

小計

11

社

263

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
----	-------	--------	----	-----

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3	回答しない			
4				
5				
～				

- (注 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。  
3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 大阪大学医学部附属病院における倫理審査委員会標準業務手順、倫理審査委員会の運営に必要な手続き等を定めている。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年11回(未来) 年12回(介入) 年12回(観察)

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 審議事項、組織、手続き、指導及び勧告	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年7回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年10回
・ 研修の主な内容 〈基礎編〉 1 未来医療開発部の役割と活動 2 治験について 3 CRC の支援について 4 「人を対象とする医学系研究」をはじめの前に知っておくべきこと 〈更新編〉 1 臨床試験研究計画での統計的留意点 2 新研究指針への対応	

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

研修プログラムは、本院と地域の中核病院が緊密に連携したプログラムで、専門研修医が地域基幹病院を移動して研修することで、それぞれの病院が得意とする分野の相互補完が可能となり、幅広い知識や技術の習得を促進し、豊富な症例を経験できるようにしている。

内科、外科領域は、内科認定医、外科専門医を取得して、さらにサブスペシャリティー（消化器病専門医、消化器外科専門医など）の専門医取得に継続するプログラムである。

なお、他の研修病院で専門医研修を行っている医師でも、将来阪大で専門研修、学位研究を希望する場合、適宜本プログラムへの参加を認めている。

また、平成27年8月には、国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的役割を担う病院として、医療法上の臨床研修中核病院に承認された。

2 研修の実績

研修医の人数	1.63人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
彦惣 俊吾	循環器内科	寄附講座准教授	18年	
猪阪 善隆	腎臓内科	教授(科長)	27年	
巽 智秀	消化器内科	講師(医局長)	23年	
岩橋 博見	内分泌・代謝内科	寄附講座准教授	25年	
木田 博	呼吸器内科	助教(診療局長)	22年	
檜崎 雅司	免疫・アレルギー内科	講師(副科長)	28年	
織谷 健司	血液・腫瘍内科	准教授(診療局長)	31年	
竹屋 泰	老年・総合内科	講師(病棟医長)	18年	
平 将生	心臓血管外科	助教	12年	
新谷 康	呼吸器外科	准教授(診療局長)	21年	
山崎 誠	消化器外科	講師	19年	
島津 研三	乳腺・内分泌外科	講師(診療局長)	21年	
高間 勇一	小児外科	助教	13年	
森本 壮	眼科	准教授	18年	
太田 有美	耳鼻咽喉科	助教(病棟医長)	19年	

田中 啓之	整形外科	助教	18年	
金田 眞理	皮膚科	講師	35年	
久保 盾貴	形成外科	准教授	19年	
奥野 龍禎	神経内科・脳卒中科	講師（病棟医 長）	19年	
田中 稔久	神経科精神科	准教授（科長）	27年	
香川 尚己	脳神経外科	助教（診療局 長）	18年	
入嵩西 毅	麻酔科	助教	15年	
味村 和哉	産科婦人科	助教	12年	
青天目 信	小児科	助教	16年	
福原 慎一郎	泌尿器科	助教	15年	
本多 修	放射線診断・IVR科	講師	23年	
磯橋 文明	放射線治療科	特任准教授	15年	
内山 昭則	集中治療部	准教授（副部 長）	27年	
池田 純一郎	病理部	准教授（副部 長）	13年	
小倉 裕司	高度救命救急センター	准教授（副部 長）	28年	
日高 洋	臨床検査部	准教授（部長）	28年	
磯橋 佳也子	核医学診療科	特任助教	16年	
菅本 一臣	リハビリテーション科	寄附講座教授	33年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

1. 目標管理対抗アップ講習会  
期間・実施回数 4/2, 10/22, 10/29, 3/3 (4回)、  
参加人数 402人
2. 疾患別統合勉強  
期間・実施回数7/16, 12/3 (2回) : 計5回  
参加人数、176人
3. 大阪大学臨床栄養研究会 (CNC)  
臨床栄養に関するテーマ  
毎月1回(8月以外)  
平成28年度のべ550人程度
4. 栄養マネジメント部研修会(食事・栄養に関するテーマ)  
褥瘡の栄養管理 (2015/4/30) 6名  
嚥下食 (2015/5/27) 8名  
PEG (2015/6/26) 7名  
IBDの食事 (2015/7/10) 7名  
MCT (2015/8/27) 7名  
リハビリテーション栄養 (2016/2/19) 7名  
栄養剤の半固形化 (2016/3/24) 6名
5. NST院内研修会 (栄養管理に関するテーマ)  
栄養介入のこれまでとこれから (2015/12)  
がん患者の栄養管理症例検討 (2016/3)  
各回参加者15名程度
6. 阪大GCPセミナー  
内容：治験を実施するための基礎的知識の習得を目的とするとともに、治験の現状と問題点、  
今後の方向性について内部、外部の講師が体系的に解説・説明する  
期間・回数：平成27年度実績  
平成27年4月～平成28年3月 全10回  
17：30～19：00 (75分の講演と15分間の質疑応答)  
参加人数：延べ317人 (院内 院外) (平均32人/回)
7. 阪大臨床研究講習会  
研修の主な内容：  
基礎編：1 未来医療開発部の役割と活動  
2 治験について  
3 CRCの支援について  
4 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」について  
更新編：1 新研究指針への対応  
2 自主臨床研究のモニタリングについて

- 3 臨床研究におけるデータマネジメントの重要性～事例から学ぶ～
- 4 臨床研究支援について

など

実施回数：年10回

参加人数：1583名（医師含む）

8. 阪大モニタリング講習会

研修の主な内容：モニタリングに従事する者、実施する者へのモニタリング講習

基本：1. モニタリングの流れ、2. モニタリングの基本事項、3. 直接閲覧

専門：1. モニタリング手順書・計画書の作成 2. モニタリング業務留意事項

実施回数：平成27年度実績 座学3回、実習6回、e-learning（いずれも90分）

参加人数：991名（院内 院外）

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容	AED研修、患者動作介助研修、医療安全講習、MRI安全管理講習会			
・研修の期間・実施回数	5/27	6/17	9/17	6/9～12 :計7回
・研修の参加人数	51人	46人	90人	96人 :計283人

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

1. 摂南大学薬学部学生インターンシップ

内容：講義、関連施設見学、CRC業務の実際：CRC同行（OJT）、  
ロールプレイング：インフォームドコンセント、報告会

期間・回数：2015年8月8日（月）～10日（水）：8時30分～17時00分、3日間

参加人数：3名（毎年3～4名）

2. 阪大GCPセミナー

内容：治験を実施するための基礎的知識の習得を目的とするとともに、治験の現状と問題点、  
今後の方向性について内部、外部の講師が体系的に解説・説明する

期間・回数：平成27年度実績

平成27年4月～平成28年3月 全10回

17：30～19：00（75分の講演と15分間の質疑応答）

参加人数：延べ317人（院内 院外）（平均32人/回）

3. 阪大臨床研究講習会

研修の主な内容：

基礎編：1 未来医療開発部の役割と活動

2 治験について

3 CRCの支援について

4 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」について

更新編：1 新研究指針への対応

2 自主臨床研究のモニタリングについて

3 臨床研究におけるデータマネジメントの重要性～事例から学ぶ～

4 臨床研究支援について

など

実施回数：年10回

参加人数：1583名（医師含む）

#### 4. 阪大モニタリング講習会

研修の主な内容：モニタリングに従事する者、実施する者へのモニタリング講習

基本：1. モニタリングの流れ、2. モニタリングの基本事項、3. 直接閲覧

専門：1. モニタリング手順書・計画書の作成 2. モニタリング業務留意事項

実施回数：平成27年度実績 座学3回、実習6回、e-learning（いずれも90分）

参加人数：991名（院内 院外）

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 野口 眞三郎
管理担当者氏名	総務課長 藤江 進 医事課長 西川 憲司 薬剤部長 三輪 芳弘 放射線部長 富山 憲幸

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	手術部
		看護記録	看護部
		検査所見記録	医事課
		エックス線写真	放射線部
		紹介状	医事課
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医事課
		従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課
		高度の医療の研修の実績	総務課
		閲覧実績	総務課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	中央クオリティマネジメント部 医事課
		医療に係る安全管理のための委員会開催状況	医事課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	中央クオリティマネジメント部 医事課

カルテ等病歴資料は、1患者1カルテとし、コンピュータによる集中管理を行っている。エックス線写真は、PACS（画像サーバ）で集中保管。



		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課 感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療技術部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療技術部
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療技術部		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療技術部		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部 総務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課
		医療安全管理部門の設置状況	中央クオリティマネジメント部 医事課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課、総務課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課、総務課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	中央クオリティマネジメント部 医事課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	総務課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
職員研修の実施状況	医事課		
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状	
閲覧責任者氏名	総務課長 藤江 進		
閲覧担当者氏名	総務課庶務係長 辰巳 裕三		
閲覧の求めに応じる場所	総務課庶務係		
閲覧の手続の概要 閲覧への希望が庶務係にあった場合に対応。			

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	①・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 患者中心の医療の実践</li><li>2. 診療情報の共有</li><li>3. 医療安全に関する組織的取り組み</li><li>4. インシデントの報告</li><li>5. 機能する医療事故防止対策</li><li>6. 適切な医療事故への対応</li><li>7. 患者からの医療相談の実施</li><li>8. 医療安全情報の共有</li><li>9. 職員に対する教育研修</li><li>10. 医療安全文化の構築</li><li>11. 医療安全管理マニュアルの作成・更新</li><li>12. 医療安全管理に関する指針の公開</li></ol>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 ( ①・無 )</p> <p>・ 開催状況：年 35 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>統括医療安全管理委員会 (年11回)：本院における医療に係る安全管理について統括する リスクマネジメント委員会 (年 6回)：医療事故の防止策を策定する 医療クオリティ審議委員会 (年17回)：医療の質の向上を図る 医療事故対策委員会 (年1回)：医療事故が発生した場合の必要な対応を行う</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 9 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療安全のための注意点</li><li>・ 他山の石：筋弛緩薬誤投与事故のシステミック分析と教訓</li><li>・ 医薬品の適正使用に関する取り組み</li><li>・ 処方変更時の注意点</li><li>・ 人工鼻・回路などのインシデント事例からみる人工呼吸器の安全管理について</li><li>・ 医療事故調査制度について</li><li>・ 医薬品の適正使用に対する取り組み</li><li>・ 輸液ポンプ・シリンジポンプの安全管理</li><li>・ 条件付MRI対応植込型医療デバイスに関する最新情報</li></ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( ①・無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>問題点の把握状況 (方法)</p> <p>【各部署】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ インシデントをイントラネット (インシデントレポート、医療クオリティ審議依頼書) から報告 (原則として当事者) するとともに、部署リスクマネージャーへ報告する。</li></ul> <p>【リスクマネジメント委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ インシデントレポートのモニタリング (毎日・当番制、要IDとパスワード)</li></ul>	

【医療クオリティ審議委員会】

- ・医療クオリティ審議依頼書への報告内容の把握

【中央クオリティマネジメント部】

- ・専任リスクマネジャーによりインシデントレポートのモニターや報告された医療クオリティ審議依頼書の内容をもとに、事例に関する問い合わせ、現場の確認

問題点の分析状況 (方法)

【各部署・部門等】

- ・当該部署、部門等にて事例の根本原因を分析

【リスクマネジメント委員会】

- ・当番委員によりインシデントの根本原因を分析

【医療クオリティ審議委員会】

- ・委員会において、医療クオリティ審議依頼書、報告者からのヒアリング、及び委員からの意見をもとにインシデントの根本原因を分析

【中央クオリティマネジメント部】

- ・専任リスクマネジャーによりインシデントの根本原因を分析

改善策の検討状況 (方法)

【各部署・部門等】

- ・当該部署、部門等にてリスクマネジャーもしくは医療安全担当者が中心となり、改善策等を検討必要に応じ、専任リスクマネジャーが介入

【リスクマネジメント委員会】

- ・インシデントの要旨と根本原因分析に基づいた再発防止策を提示
- ・事故防止策について意見交換、事故防止策を承認
- ・院内の他の委員会や他部門への検討や改善の申し入れ

【医療クオリティ審議委員会】

- ・審議依頼事例について、関係診療科・部門への再発防止策の検討や改善を指示
- ・各診療科・部門から提出された再発防止策について承認

【中央クオリティマネジメント部】

- ・専任リスクマネジャーによるインシデントに関する問い合わせ、現場の点検、改善の支援
- ・事故防止策を実行するために必要な業務の実施、他部門との連携協力
- ・リスクマネジャーメーリングリストによる情報提供
- ・院内ラウンド、院内相互チェックの実施計画
- ・リスクマネジャー会議（運営部会）の開催
- ・教育のための教材を作成・教育の実施
- ・リスクマネジメントニュースの作成・発行（警鐘事例等の共有）
- ・QM（クオリティマネジメント）ニュース（医療安全広報誌）の作成・発行

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 院内感染対策に関する基本的な考え方</li><li>・ 院内感染対策に関する組織的な取り組み</li><li>・ 感染制御部の設置と目的</li><li>・ 院内感染対策の対象者</li><li>・ 院内感染対策の内容</li></ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>感染対策委員会：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①院内感染症の届出状況や抗菌薬の使用状況等の報告</li><li>②院内感染対策についての審議 (感染対策の重要事項に関すること、必要に応じての指導助言に関すること、院内感染防止対策の施設基準に関すること等)</li></ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 31 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 全職員対象：3回/年 院内環境対策 感染症対策 院内感染対策のまとめの報告</li><li>・ 対象別教育 新採用者（医師、研修医、看護師）-院内感染対策の基本についての講義と演習 部署単位での勉強会-耐性菌対策、抗菌薬の適正使用など部署の問題に応じた内容 外部委託業者（清掃員、洗浄員、受付、メッセンジャーなど）インフルエンザ対策</li></ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○耐性菌サーベイランス、デバイスサーベイランス等のサーベイランスデータを元に対象部署に介入を行い感染対策の改善を図っている</li><li>耐性菌サーベイランスを元にした介入 (MRSA、MDRP、ESBL産生株など)</li><li>デバイスサーベイランス実施部署：ICU (BSI、UTI、VAP) 救命救急センター (BSI、UTI)</li><li>手術部位感染サーベイランス 実施部署：消化器外科 (SSI)</li><li>○薬剤部からのデータを元に抗菌薬適正使用にむけての介入を行っている</li><li>8日以上継続使用には、抗菌薬継続使用届の追加届出を必要とする</li><li>対象患者のリストアップは専任薬剤師によって行う</li><li>○専従の医師により、感染症治療コンサルテーションを受け、抗菌薬適正治療を促進している</li></ul>	

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年4回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>27年度の講習会実施実績</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 6月4日 医療機器・医薬品安全講習会（阪大病院フォーラム） （参加者数112名）「間違いやすい医薬品～名称・外観・後発医薬品・バイオシミラー～」</li><li>・ 10月14日 医療機器・医薬品安全講習会（阪大病院フォーラム） （参加者数96名）「注射剤混合時の注意点」</li><li>・ 11月26日 医薬品安全管理講習会 （参加者数1,717名）「医薬品の適正使用に対する取り組み」</li><li>・ 2月2日 医療機器・医薬品安全講習会（阪大病院フォーラム） （参加者数70名）「がん化学療法に対する薬剤部の取り組み」</li></ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 医薬品安全業務手順書の策定・見直し</li><li>・ 従業者に対する医薬品安全使用のための研修企画・実施</li><li>・ 業務手順書に基づく業務実施の確認・記録</li><li>・ 医薬品の安全使用のための情報収集その他改善方策</li></ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 安全性速報（ブルーレター）等の重要安全情報の発信（委員および各部署医薬品安全管理者に速報）</li><li>・ 医薬品・医療機器等安全性情報（厚労省）No. 322～331速報</li><li>・ PMDA・製薬企業からの医薬品適正使用のお願い等の配信</li><li>・ 医薬品安全関連情報、院内副作用情報のHP提供</li><li>・ 院内医薬品集発行</li><li>・ ハイリスク薬表改訂、処方オーダー入力ガイド改訂</li><li>・ 薬品マスタ設定の変更による安全対策</li></ul>	

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 163 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 新規導入機器に関する安全使用研修 47品目 57回 受講者 1394人 (2) 熟練を要する医療機器の安全使用研修 40品目 40回 受講者 405人 (3) 特定機能病院必須管理機器の安全使用研修 人工心肺・補助循環装置 17回 受講者 138人 人工呼吸器 23回 受講者 225人、e-learning受講 121人 血液浄化装置 5回 受講者 41人 閉鎖式保育器 4回 受講者 39人 除細動器 1回 受講者 4人、e-learning受講2278人 (4) 実機を用いた医療機器研修 (OpenME) 16回 受講者 99人</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (○有・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>4月の医療機器安全管理小委員会で今年度の保守点検計画の策定を承認 9月の医療機器安全管理委員会で保守点検の実施進捗状況を中間確認 3月の医療機器安全管理委員会で保守点検の実施結果を確認 それぞれ原議書にて院長はじめ病院管理者に閲覧確認を取っている。 対象機器は特定機能病院必須管理機器6品目で、臨床工学技士による点検および医療機器製造会社のメンテナンスによる点検を実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (○有・無)</p> <p>PMDAや厚生労働省からの通知ならびに関連学会等からの安全情報を委員会に都度情報を提供すると共に、重要案件については、病院リスクマネージャー全員に通知し全職員に周知するようにしている。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>[医療機器導入時の安全使用研修の充実] 新規医療機器に対する安全使用研修の必要性を院内のリスクマネージャーを対象とした会議や職員を対象とした医薬品・医療機器安全管理講習会で広報するとともに、各診療科と病棟に医療機器安全管理責任者名で研修様式を配布し啓発した。 また、院内に納入される医療機器に対して、納入業者から毎月納入機器を医療機器安全管理責任者に報告するシステムを確立し、病院に導入する医療機器が把握できるようになった。 これによって、新規導入機器の安全使用研修が滞りなく実施されるようになった。</p>	



(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>本院における医療に係る安全管理について総括するため、総括医療安全管理委員会を設置しており、医療安全担当の副病院長（医療安全管理責任者）が同委員会の委員長となっている。同委員会にリスクマネジメント委員会及び医療クオリティ審議委員会（医療安全管理部門である中央クオリティマネジメント部が主管）、医薬品安全管理委員会（医薬品安全管理責任者である薬剤部長が委員長）、医療機器安全管理委員会（医療機器安全管理責任者である医療技術部長が委員長）を置き、総括医療安全管理委員会委員長（医療安全管理責任者）が統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（8名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品に関する情報の整理については、薬品情報管理室に担当者を設置し、月に1回程度、医薬品の使用状況を確認し、医薬品安全管理責任者に報告、必要に応じて院内への周知を実施。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>「医薬品の安全使用のための業務手順書」に未承認新規医薬品の採用、購入についての項目を追記し改訂を行う予定。また、病棟担当薬剤師が持参薬確認時、医薬品使用状況把握時に未承認医薬品等の情報収集を行う予定、さらに、当院未来医療倫理審査委員会または先進医療審査会で承認された未承認新規医薬品等の情報も収集する。これらすべての情報は薬品情報管理室に集約させ、情報収集・把握を実施、必要に応じて院内への周知を実施する。</p> <p>・担当者の指名の有無 有・無</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （有・無）</p> <p>・規程の主な内容：</p> <p>インフォームド・コンセント取扱規程に説明に関する責任者、説明時の同席者、説明の内容、説明の実施等を規定している。</p>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・活動の主な内容：</p> <p>病歴管理委員長が診療録管理の責任者であり、診療情報管理士が中心となって、診療記録の記載内容の確認と管理を行っている。</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（9）名、専任（ ）名、兼任（6）名  うち医師：専従（4）名、専任（ ）名、兼任（ ）名  うち薬剤師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（1）名  うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（1）名</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. インシデントの調査・分析・レポート管理</li> <li>2. 医療事故防止方策の検討・実施・評価</li> <li>3. リスクマネジャー会議の開催</li> <li>4. 職員研修の企画・実施</li> <li>5. 医療安全推進及び教育のための教材の開発・活用</li> <li>6. 現場のリスクマネジャー支援</li> <li>7. 他の委員会や部署、各職種間の連絡調整</li> <li>8. リスクマネジメント委員会等の開催準備及び支援</li> <li>9. 医療事故後の患者及び家族等への対応支援等</li> <li>10. 全死亡症例の把握・検証</li> </ol> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）</p> <p>・規程の主な内容：（当該措置を講じるための計画を提出済）</p> <p>診療体制担当副病院長のもと、「高難度新規医療技術・未承認新規医薬品等を用いた医療の導入プロセスに関する会議」を立ち上げ、部門の設置を検討しているところである。</p> <p>上記において、今後厚生労働省から提示されることとなっているガイドラインを踏まえ、診療科等から申請させる書類等、確認すべき事項等を検討のうえ規程化を進めることとしている。</p> <p>・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）</p>	
⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
<p>・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）</p> <p>・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）</p> <p>・規程の主な内容：（当該措置を講じるための計画を提出済）</p> <p>診療体制担当副病院長のもと、「高難度新規医療技術・未承認新規医薬品等を用いた医療の導入プロセスに関する会議」を立ち上げ、部門の設置を検討しているところである。</p> <p>未承認新規医薬品センターを立ち上げ、そこに未承認新規医薬品等評価委員会を設置し、医薬品安全</p>	

管理責任者をセンター長として配置予定、当該未承認等の医薬品の使用条件や、使用の適否等を決定する。また、当委員会において上記の規程を定め、使用状況の情報収集と周知ができる体制を構築。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 監査委員会の設置状況 有・無

- ・監査委員会の開催状況：年 一 回
- ・活動の主な内容：（当該措置を講じるための計画を提出済）
- ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）
- ・委員名簿の公表の有無（有・無）
- ・委員の選定理由の公表の有無（有・無）
- ・公表の方法：

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 2 件（平成 27 年度）
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 44 件（平成 27 年度）
- ・医療安全管理委員会の活動の主な内容

【統括医療安全委員会】

医療安全に関係する 6 つの委員会「リスクマネジメント委員会」「医療クオリティ審議委員会」「医療事故対策委員会」「医薬品安全管理委員会」「医療機器安全管理委員会」「感染対策委員会」を統括し、医療安全全般に関する意思決定を行う。

【医療クオリティ審議委員会】

医療クオリティ審議依頼書で報告のあった事態の事実関係の調査・把握を行い、報告された事態が、医療事故か否かを判断する。また、日本医療機能評価機構への報告事例、及び医療事故調査制度に伴う報告事例を審議する。院内全死亡症例を各診療科長および中央クオリティマネジメント部が独立して把握・検証した結果を確認し、医療安全管理責任者に報告する。院内全死亡症例把握システムは平成 28 年 9 月 20 日より運用開始している。

【リスクマネジメント委員会】

インシデントレポートを毎日モニターし、迅速に医療事故防止対策の立案を行う。院内ラウンド、院内相互チェックを実施する。職員研修を実施する。マニュアル類の見直しを行う。

【医療事故対策委員会】

患者や家族等及び医療事故を起こした当事者や部署に対して、必要な支援を行う。

医療事故に関して、情報収集・統合、分析、意思決定、関係機関への報告、院内外への公表を行う。

⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院への立入り（有（病院名： ））（無）
- ・他の特定機能病院からの立入り受入れ（有（病院名： ））（無）

・技術的助言の実施状況（当該措置を講じるための計画を提出済）

立入り、受入れの方法や内容については、厚生労働省から示されると説明を受けているが、現在のところまだ示されていない。今後、厚生労働省から示される立入り及び受入れの方法、内容を参考に来年度から行う予定である。

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者及びその家族からの医療に関する相談・ご意見に対して、その内容の迅速な解決のため適切な処理を行うことを目的とした患者相談室を設置している。病院長は、相談等の内容が本院の医療安全管理体制確保に有益であると認められるときは、関係部署及び関係委員会に対して検討及び改善を指示することができる。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有・無）

・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（有・無）

・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有・無）

⑭ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況（当該措置を講じるための計画を提出済）

リスクマネジメント講習会にて、特定機能病院としての高度な医療を提供するために必要な知識にすいて従来から研修を行っているが、新たな特定機能病院承認要件の各項目に関する事項については今年11月の講習会で全職員に対して説明を行う、また、監査委員会で指摘された事項に関する研修は、今後の監査委員会後の意見を見て行う予定である。

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況（当該措置を講じるための計画を提出済）

国立大学附属病院長会議が実施する研修（今後検討予定）に来年度から参加させる予定である。

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	①・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益財団法人 日本医療機能評価機構 平成27年11月18日-19日 認定は平成28年1月22日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	①・無
・情報発信の方法、内容等の概要 平成24年度に本院公式ホームページをリニューアルして以降、内容の充実を図るとともに、見やすくわかりやすい情報提供を行っている。また、平成27年4月には、より見やすく伝わりやすい紙面をめざし、年4回発行する広報紙『阪大病院ニュース』をリニューアルし、大学病院としての本院の存在意義を一般社会に十分に理解してもらうよう努めている。今後も引き続き適切な情報発信を行う。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	①・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 本院では、対象となる疾患等に対し、関連診療科や診療部門並びに関連医師やコメディカルが連携し、包括的な診断及び治療を実現するため、中央診療施設として以下のセンターを配置し、複数の診療科が連携して対応に当たる体制を整えている。 ・脳卒中センター ・前立腺センター ・睡眠医療センター ・疼痛医療センター ・生殖医療センター ・ハートセンター ・小児医療センター ・オンコロジーセンター ・呼吸器センター ・てんかんセンター ・消化器センター ・IVRセンター ・胎児診断治療センター ・難病医療推進センター ・子どものこころの診療センター (平成28年12月設置予定)	

(様式第 8)

阪医病総第 9 号  
平成 28 年 9 月 9 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人大阪大学  
学長 西尾章治郎

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 医療安全管理責任者を配置するための予定措置

大阪大学医学部附属病院副院長及び病院長補佐に関する内規及び統括医療安全管理委員会規程の改正により、医療安全管理及び訴訟に関することを所掌する副病院長を医療安全管理責任者とした（平成 28 年 10 月 1 日施行）。

平成 28 年 7 月 21 日開催の病院運営会議（最高決定機関）において承認。

統括医療安全管理委員会の委員長を「医療安全及び訴訟に関することを所掌する副病院長（医療安全管理責任者）」とし、同委員会の下にリスクマネジメント委員会、感染対策委員会、医療クオリティ審議委員会、医療事故対策委員会、医薬品安全管理委員会及び医療機器安全管理委員会を置いている。

2. 医薬品安全管理責任者の活動を充実するための予定措置

診療体制担当副病院長のもと、「高難度新規医療技術・未承認新規医薬品等を用いた医療の導入プロセスに関する会議」をたちあげ、部門の設置を検討しており、医療法施行規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号イからハまでに掲げる事項及び第 9 条の 23 第 1 項第 3 号イからハまでに掲げる事項のうち未措置の事項については、平成 28 年 9 月 30 日までに対応する予定である。

### 3. 医療を受ける者に対する説明に関する責任者を配置するための予定措置

大阪大学医学部附属病院インフォームド・コンセント委員会規程の改正並びにインフォームド・コンセント取扱規程を制定する。本規程等については平成 28 年 9 月 15 日開催の病院運営会議（最高決定機関）において承認予定である（平成 28 年 10 月 1 日施行）。同取扱規程において、説明に関する責任者は、インフォームド・コンセント委員会委員長とした。

### 4. 説明の実施に必要な方法に関する規程を作成するための予定措置

標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法については、上記 3 に記載のインフォームド・コンセント取扱規程のもとに本院におけるインフォームド・コンセントに関する指針を位置づけ、説明を行う医療の担い手が適切に医療を受ける者の理解を得るよう努める。運用指針については、制定済み。

### 5. 診療録等の管理に関する責任者を配置するための予定措置

病歴管理委員会委員長が診療録管理の責任者であり、診療情報管理士が中心となって、診療記録の記載内容の確認と管理を行っている。同委員会委員長は医療情報部長としている。

### 6. 規則第 9 条の 23 第 1 項第 10 号に規定する医療に係る安全管理に資する措置を実施するための予定措置

従来からインシデントレベル 3b 以上、もしくはレベルに関わらず重大な事態については、診療科・部署から医療クオリティ審議依頼システムを通じて病院長へ報告され、緊急性に応じて病院長を委員長とする医療クオリティ審議委員会を開催し、多職種専門家で審議する仕組みを有している。それ以外の事例も含めた全ての入院患者の死亡・死産症例についても、医療安全管理部門・医療安全管理責任者・病院長が速やかに把握、検証できるシステムを構築し、現在運用マニュアル等の整備を進めている。運用開始は 9 月 15 日の病院運営会議での報告終了後、9 月下旬となる予定である。



7. 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口を設置するための予定措置

開設者が設置している公益通報窓口との差別化により、適正に情報提供を受け付ける窓口を設置することとした。

具体には、非匿名化による法律違反に関する内部通報は従来通り大学に設置されている窓口とし、上記以外の医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合の情報提供窓口を病院内に設置する。なお、本窓口においては匿名による情報提供も受け付ける。なお、本取扱い等については平成 28 年 9 月 15 日開催の病院運営会議（最高決定機関）において承認予定である（平成 28 年 9 月 15 日施行）。

8. 医療安全管理部門による医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業者の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認実施のための予定措置

医療法施行規則第 9 条の 23 第 1 項第 6 号の全項目を既に実施している。項目ホについては、平成 12 年からインシデントレポートシステムを構築し、リスクマネジメント委員がほぼリアルタイムにレポートをモニタリングし、必要な調査、介入を行っている。インシデントレベル 3b 以上は医療クオリティ審議委員会でピアレビューを行い、必要時は改善策を指示し、その実施状況や医療安全への意識を院内ラウンドにて確認している。また、国立大学附属病院評価指標等を、毎年測定し公表している。その中には、手術症例での肺血栓塞栓症予防対策実施率等の指標が含まれているが、さらに、その他の有意義なモニタリング項目の有無について今年中にリスクマネジメント委員会、感染対策委員会、医薬品安全管理委員会、医療機器安全管理委員会等で検討する予定としている。

9. 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

診療体制担当副院長のもと、「高難度新規医療技術・未承認新規医薬品等を用いた医療の導入プロセスに関する会議」をたちあげ部門の設置を検討しているところである。  
平成 29 年 3 月 31 日までに対応予定。

10. 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

上記9において、今後厚生労働省から提示されることとなっているガイドラインを踏まえ、診療科等から申請させる書類等、確認すべき事項等を検討のうえ規程化を進めることとしている。平成29年3月31日までに対応予定。

11. 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

診療体制担当副院長のもと、「高難度新規医療技術・未承認新規医薬品等を用いた医療の導入プロセスに関する会議」をたちあげ部門の設置を検討しているところである。平成29年3月31日までに対応予定。

12. 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

未承認新規医薬品センターを立ち上げ、そこに未承認新規医薬品等評価委員会を設置し、医薬品安全管理責任者をセンター長として配置予定、当該未承認等の医薬品の使用条件や、使用の適否等を決定する。また、当委員会において上記の規程を定め、使用状況の情報収集と周知ができる体制を構築。平成29年3月31日までに対応予定。

13. 監査委員会を設置するための予定措置

要件を満たす監査委員会委員の人選について、病院長及び医療安全に係る関係者において検討を進めており、平成29年3月31日までに対応予定である。

14. 他の特定機能病院の管理者との連携による立入り及び技術的助言を遂行するための予定措置

立入り、受入れの方法や内容については、厚生労働省から示されると説明を受けているが、現在のところまだ示されていない。  
今後、厚生労働省から示される立入り及び受入れの方法、内容を参考に来年度から行う予定である。

15. 職員研修を実施するための予定措置

リスクマネジメント講習会にて、特定機能病院としての高度な医療を提供するために必要な知識について従来から研修を行っているが、新たな特定機能病院承認要件の各項目に関する事項については今年 11 月の講習会で全職員に対して説明を行う。また、監査委員会で指摘された事項に関する研修は、今後の監査委員会後の意見をみて行う予定である。

16. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

国立大学附属病院長会議が実施する研修（今後検討予定）に来年度から参加させる予定である。

17. 医療安全管理部門の人員体制

措置済み

- ・所属職員：専従（8）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
- うち医師：専従（4）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
- うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
- うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

18. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

措置済み。